

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.  
101  
海建

# カイケン

magazine

年報  
号

研究室説明会の日程  
研究室紹介  
博士論文・修士論文・卒業研究  
就職状況

## 目次

平成28年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	研究室紹介(環境保全系)	15
平成28年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績(空間利用系)	19
学科イベントカレンダー	3	教員研究業績・研究室活動業績(資源・エネルギー開発系)	26
研究室紹介(空間利用系)	4	教員研究業績・研究室活動業績(環境保全系)	28
研究室紹介(資源・エネルギー開発系)	13	就職情報	30

## ●平成28年度 研究室説明会日程

時間 教室	1、2時限				3時限		4時限	
	10:00~ 10:40	10:50~ 11:30	11:40~ 12:20	12:30~ 13:10	13:00~ 13:40	13:50~ 14:30	15:00~ 15:40	15:50~ 16:30
4月4日(月) 1441教室	桜井 [研究室]	小林(直) [研究室]	佐藤 [研究室]		山本 [研究室]	畔柳・菅原 [研究室]		
4月5日(火) 1441教室	小林・野志 [研究室]	大塚 [研究室]	岡本 [研究室]	登川 [研究室]	居駒・恵藤 [研究室]	北嶋 [研究室]	近藤 [研究室]	福井 [研究室]

## 平成28年度 クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
学部1年	小林 昭男	1335	047-469-5281	kobaqyashi.akio@nihon-u.ac.jp
	佐藤 信治	1352	047-469-5419	sato.shimji@nihon-u.ac.jp
学部2年	登川 幸生	1357	047-469-5226	togawa.sachio@nihon-u.ac.jp
	野志 保仁	1335	047-469-5281	noshi.yasuhito@nihon-u.ac.jp
学部3年	居駒 知樹	1342	047-469-8482	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp
	岡本 強一	1365	047-469-5568	okamoto.kyoichi@nihon-u.ac.jp
学部4年	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
	恵藤 浩朗	1341	047-469-5730	eto.hiroaki@nihon-u.ac.jp
	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
大学院	近藤 典夫	1353	047-469-5423	kondo.norio@nihon-u.ac.jp

## 平成28年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
学生相談	大塚 文和	1334	047-469-5480	otsuka.fumikazu@nihon-u.ac.jp
留学生担当	畔柳 昭雄	1346	047-469-5424	kuroyanagi.akio@nihon-u.ac.jp

## 学科事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室  
TEL : 047-469-5420 FAX : 047-469-9446

岡崎 敏美  
林 敦子

okazaki@ocean.cst.nihon-u.ac.jp  
hayashi@ocean.cst.nihon-u.ac.jp

## 学生受賞

### ● 部科校長賞

星野智史：(学術業績) 日本沿岸域学会研究討論会優秀講演賞 受賞  
渡邊 亮：(学術業績) 日本沿岸域学会研究討論会優秀講演賞 受賞

### ● 優等賞

第1位 重田秀之  
第2位 水野瑛葉  
第3位 望月良平

### ● 海建学生栄誉賞

大津俊裕：学生の模範となる顕著な業績を修め海洋建築工学科の評価を高めることに貢献したため

### ● 加藤賞

川崎 将：訪日外国人を対象とした複合医療リゾートの提案ー浜名湖の水辺環境と先進医療を組み合わせた施設の設計ー  
山川大喜：首都圏における橋の防災拠点化計画の提案ー東京都品川区京浜運河に架かる勝島橋をケーススタディとしてー  
菅野裕識：津波漂流物の衝突を想定したRC部材の挙動に関する実験的研究

### ● 海建優秀賞

渡邊 亮：津波ハザードマップの表記内容の統一性に関する研究  
松岡晃弘：港湾内係留浮体の津波防災対策手法に関する基礎的研究

### ● 桜建賞

大野真由美：日本における海事博物館の位置づけ及び施設の基礎的研究  
橋本佳樹：那古船形海岸における砂質干潟の地形特性に関する研究  
末武紘一・中川 茜：低温実験室における尿素模型海水の作製法とその物性

### ● 海建賞

荒川高広・栗原和也・小勝大洋：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥からの放射性セシウム除去ー第2報 汚泥粒径の性状特性ー  
遠藤裕伸：船橋三番瀬海浜公園における放射線量の観測とその特性解析  
高橋 翔：新宿群中街ー新宿ゴールデン街更新計画ー  
田口将広：海水浴場利用者を対象とした自動車避難時の津波防災意

識調査に関する研究

佐藤陽一：漁村集落における高齢者の津波避難リスクの軽減に関する研究

山崎千菜・疊谷厚史：PCaPC部材のせん断終局強度式に関する研究  
井手佑介：並列2角柱の流体力特性に関する3次元数値解析

### ● 桜工賞

高橋 翔・千葉雄介・中西宏直・今村夏波：海を活かしたまちづくりコンペ最優秀賞(デザイン賞・受賞)

中川 茜・柴田明奈・水野瑛葉：アルバム委員としての貢献  
大津俊裕：学部・学科の行事等への多大な貢献

### ● 平成27年度理工学部学術講演会優秀発表賞(口頭発表部門)

山崎祐輝：異形PC鋼棒を用いたPCaPC柱のせん断終局強度に関する検討ーその3 せん断終局強度式の提案と計算精度ー

原田耕成：黒鉛を摩擦材としたすべり基礎構造に関する研究ーその8 上屋付き模型試験体の加振実験ー

菅野裕識：津波漂流物の衝突を想定したPC部材の挙動に関する実験的研究ーその2 実験結果ー

渡邊 亮：津波ハザードマップの記載・表記内容の統一性に関する研究ー作成方法に関する都道府県から市町村への指示状況ー

佐藤寛深：迂回行動を考慮した自動車避難シミュレーションに関する研究

### ● 平成27年度理工学部学術講演会優秀発表賞(ポスター発表部門)

橋本佳樹：那古船形海岸における干潟の地形変動特性に関する研究  
外川信弘：円柱の流力振動に関する三次元数値解析

守川 耀：低スクルートン数での角柱のギャロッピング振動解析  
中山淳雄：国際貨物コンテナを利用したモバイルアクアリウムの提案

滝村菜香：大館灯籠商店街ー秋田県大館御成町における杉を使った新たな商店街の提案ー

山川大喜：橋の防災拠点ネットワークの提案ー品川区八潮地区勝島橋をケーススタディとしてー

山影悠時：大館市“城”舎、大館市象徴の再編

松村弘貴：防潮堤背後形状が遡上津波特性に及ぼす影響に関する基礎的研究ーその1 水槽による検討ー

遠藤裕伸：船橋三番瀬における放射線量の観測とその特性解析

## 学科イベントカレンダー

### 2016年

4月6日(水)	新入生歓迎式典	8月4日(木)	海洋実習Ⅱ(2年生)～8月12日(火)まで
4月下旬	新入生学科オリエンテーション	8月下旬	海外研修旅行
5月上旬	学科留学生交流会	9月上旬	海洋実習Ⅰ(1年生)
5月21日(土)	理工学部スポーツ大会	11月2日(水)	桜理祭～11月5日(土)
7月下旬	ポスター発表(1年生)	12月3日(土)	理工学部学術講演会(駿河台校舎)

### 2017年

1月上旬	博士論文発表会	3月初旬	卒業発表
2月上旬	卒業論文発表会	3月25日(土)	卒業式
2月下旬	修士論文発表会	-	-

## Teaching Staff

教授  
畔柳 昭雄助手  
菅原 遼

## ● 研究室紹介

本研究室では、「水と人とのかかわり」を基本テーマとして、水と建築、水と空間、水と場所、水と生活などについて考究することを目的としています。

そのため、「歩く・見る・考える・伝える」を重視し、建築を見て、都市を感じ、水辺や海を知り、地域を理解することからはじめます。また、素養を身に付けるための関連の文献紹介や研究解説などを行い、理解増進や興味・関心を深められるようにし、研究に求められる協調性や積極性、独創性及び思考力を養うためのワークショップも行います。さらに、地域と連携した実際的な研究活動や設計活動などを通して、ものづくりに対する多角的な考え方を養い、将来、社会において活躍できる人材の育成を行います。

UPL <http://kuro.ocean.cst.nihon-u.ac.jp/>

## ● 卒業研究のテーマ

## 【人間・活動・環境系】

- ・生活用水の利用と行動・評価に関する研究
- ・アジア諸都市の水資源・水環境に関する研究
- ・水辺の市民開放施策に関する研究

## 【建築・都市・防災系】

- ・建築が持つ「動的要因」に関する研究
- ・洪水常襲地域における建築と地域対応に関する研究
- ・洪水・津波災害リスク対応と地域政策に関する研究

## 【デザイン系】

- ・仮設・移動性を考慮した建築物のデザイン
- ・浮体式海洋建築物のデザイン
- ・都市熱緩和のための新たな親水空間のデザイン

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、都市、建築、地域計画に対する思考力や表現力の養成を図ります。具体的には、CAD や Illustrator、Photoshop などの表現技術をわかり易く丁寧に指導し、同時にデザインビルドをお台場海浜公園や地方の海浜で行います。また、文献紹介や研究解説、学術講演会発表などを通して、卒業論文の執筆に向けた自身の興味・関心事の深化を図ります。

## ● 着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください（デザイン系を志望する学生は、設計製図で制作した作品を必ず持参してください）。希望者は、卒業研究着手や就職活動に支障のないように単位を履修していることのほか、2年次までの設計製図の単位を取得済であることを希望します。また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。

## ● 卒業論文

大野真由美：日本における海事博物館の位置づけ及び施設の基礎的研究

加藤千尋：東京市枝川町住宅の計画と経年変化について

小海 諄：多自然川づくりからみた水辺環境の変化に関する研究－横浜市和泉川を対象として－

深草安那：水関連の用語を持つ集合住宅の立地分布から見た水辺の影響範囲－東京都足立区を事例として－

吉本弘太：海水浴場における規制の傾向に関する研究－関東地方を対象として－

## ● 修士論文

安彦啓啓：津波避難ビル利用に向けた学校施設の建築的特性に関する研究－三重県沿岸 18 市町を対象として－

竹内寛偉：ふ頭公園の空間構成と親水活動特性に関する調査研究

田中雄基：新規整備された津波避難ビルに見る空間構成と避難機能の位相関係

横田憲寛：水害常襲地域における水防建築の保存・活用方法に関する研究－文化遺産に指定された水防建築を対象として－

## ● 博士論文

菅原 遼：水辺の社会実験から見た水辺の市民開放施策に関する研究



## Teaching Staff

教授  
小林 直明

## ● 研究室紹介

今までの企業において設計活動および技術の開発を行ってきた経験を最大限に生かし、その内容を皆さんの教育に繋げたいと思います。

また建築工学と比較して海洋建築工学分野自体は建築と土木と、またその他の技術分野の融合が重要である認識しています。さらに建築は現在まで培ってきた技術と異分野の技術の融合させることで更なる発展があると考えます。敷地内での設計となる建築は、周辺のまちづくり、自然の環境等を考慮して設計しますが、建築自体が異分野の機能と結び付かないと次なる建築の将来は開けないのではと考えます。たとえば、単なる環境装置の設置を超えて周辺の自然と連携する、市街地多種の交通システムと連携を図る、ICT 技術とのさらなる融合等が考えられますが、海洋建築であるからこそ敷地に捉われない無限の可能性と異分野の連携のポテンシャルが高いことを認識したいと思います。

新しいものを開発する場合、単独分野の既往の技術に縛られることなく異分野技術との融合を図ることで達成されるケースが多いことから、既往の技術の集積でなく、常にチャレンジ精神で新しい物事に向き合う姿勢が重要であると考えます。それらを研究および実際の設計活動を通して学生に教育することを目指します。海洋建築工学は、それらを教育するのに必要条件を兼ね備えている工学分野であると考えています。一例として現在行なわれている 3.11 復興において、建築と土木のコミュニケーション不足による被災地住民不在の計画が進んでいる現実も散見されるなか、両分野の融合でもある海洋建築工学分野は、自然災害と共存できる将来の国土づくりのリーダーシップを担う使命があると考えます。

また、建築は人の知的生産性（プロダクティビティ）およびアクティビティを左右できる力があります。建築空間のあり方、デザインによって人に・社会に影響力を与えることができる実際の建築設計と提案を目指します。

## ● 卒業設計・研究のテーマ

## [建築・海洋建築・まちづくり計画デザイン]

- 1) 建築と土木を融合した海洋建築デザイン・サステナブル海洋建築デザイン
- 2) 知的生産性（プロダクティビティ）を高める建築デザイン
- 3) ユニバーサルデザインと建築デザインの相反性による空間相乗効果
- 4) 3.11 復興計画デザイン（津波&放射線）・東南海トラフ地震による津波被災想定値のまちづくりと建築デザイン
- 5) 歴史的建造物の動態保存（使いながら保存する）・歴史

知的生産性を高める建築  
横河電機金沢研究所歴史的建造物の動態保存  
自由学園明日館復興提案：津波を「かわす・逃げ切れる」防災まちづくり  
宮城県気仙沼・岩手県宮古市田老地区

的建造物のサステナブルエネルギー利用

- 6) 既存ストックを利用した建築デザイン

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、建築設計の基本的知識およびデザイン手法の指導と、自分の建築作品を相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上も課題に取り組んでまいります。

## ● 着手条件

建築大好き人間。デザイン（建築だけに捉われない）大好き人間。本当に自分がそれらを好きかどうか確かめたい人。設計製図の授業を受けて楽しいと思った人。

## 計画分野

空間利用系

## ウォーターフロント研究室

1356 室

## Teaching Staff

教授  
桜井 慎一

## ● 研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り、有効に時間を使えることです。3年でゼミに入って最初に学ぶのは「**時間の管理**」です。時間を目で見て把握し、主体的に時間を管理し、破綻のないスケジュールングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、今、不満に感じていること、将来、必要になってくることを考え、学生自らが提案します。計画や企画の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「**ニーズを掘り起こす能力**」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも、人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。原稿を見ず、自分の言葉で、誰にでもわかるように、決められた時間の中で、興味を引きつけ飽きさせない「**プレゼンテーション力**」を養います。

## ● 卒業研究およびゼミナールのテーマ

## (A) ウォーターフロントの環境創造・環境評価

- ① 常時滞水調整池の市民開放に関する研究
- ② ペット専用ビーチの整備と運営に関する研究
- ③ 水中文化財を対象としたダイビングスポット整備
- ④ 水辺環境に適合する屋上緑化手法の研究
- ⑤ ビーチクラブによる海岸利用・管理の研究

## (B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥ 水辺景観を向上させる保存船舶の展示方策
- ⑦ 海岸景観に調和する擬岩・擬木の適正利用
- ⑧ 水辺環境を活かすボードウォークの適正利用
- ⑨ 水辺景観を引き立たせる防護柵のデザイン
- ⑩ 消波ブロックの美的配置に関する研究

## (C) ウォーターフロントの有効利用と空間整備

- ⑪ 大型クルーズ客船の寄港地に適する港の選定手法
- ⑫ 工場夜景や軍港を対象とした観光クルーズ
- ⑬ ウォーターフロントの産業観光資源の発掘調査
- ⑭ 遊休化した地方漁港空間の有効活用方策

## (D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑮ 津波避難誘導標識の効果的な設置方策
- ⑯ 海洋レクリエーションの津波避難対策
- ⑰ 津波避難タワー・避難シェルターの有効配置の研究
- ⑱ 津波記念碑の市民認知継承に関する研究



2015年のゼミ旅行（瀬戸内海・犬島）

- ⑲ 船舶を用いた帰宅困難者輸送の研究
- ⑳ 津波ハザードマップの表記の統一化方策

## ● ゼミナール活動

前期は、時間管理、情報収集、資格取得、進路就職などに関する座学、三番瀬や都心WFの見学会を実施します。夏季休暇以降、12月までの約半年間をかけて個別テーマによるゼミナール研究論文を作成する。成果は学術講演会で発表し、就職活動にも役立てます。

## ● 2016年度の主な行事予定

- ① 新入室ゼミ生歓迎会（5月）、② 三番瀬体験散策会（6月）、③ ウォーターフロント見学会（7月）、④ 夏季研修旅行・九州（8月）、⑤ 学術講演会での論文発表（12月）、⑥ ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑦ 桜井研卒発表会（2月）

## ● ゼミナールおよび卒業研究の着手条件

説明会参加者の中から個人面談によって決定します。ウォーターフロント計画、建築法規、都市計画等の科目を履修していることが望ましい。

## ● 2015年度・卒業論文

- 大津俊裕：クルーズの寄港地に適する港の選定手法  
坂本真理：工場夜景クルーズの現状課題  
笹川泰佑：ダイバーに対する津波情報の伝達方法  
佐野亜莉花：潮入り庭園の維持管理と保存  
高木祐輔：夜間における津波避難誘導標識の現状  
高橋奎太郎：犬同伴可能ビーチの整備実態と課題  
田島実季：親水公園における擬木の適正利用方策  
森田達也：河川利用者の水難事故の危機意識特性  
渡邊 亮：避難ハザードマップ表記の統一性と課題  
蒲原光彦：新基準に満たない津波避難タワーの現状

## ● 2015年度・ゼミ論文

- 会沢斗志希：地下公共空間の浸水被害実態と対策  
池ヶ谷典宏：軍港クルーズの役割と課題  
上野耕平：都心水域におけるカヌー活動の推進策  
神田英輝：水門施設の津波対策の現状と課題  
塚本寛人：蓄光式避難誘導標識の設置状況と課題  
富永柚香：景観に調和する消波ブロックのデザイン  
中村旭宏：小規模地方漁港の空間活用方策

## Teaching Staff

専任講師  
佐藤 信治

## ● 研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築が好き！であることが大切です。建築の設計はある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にわいわいがやがやと学びたいと考えています。

また建築をデザイン・設計する前段階としては建築を計画するということも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、大学院、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年 100%を維持しています。

## ● 卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計〉と〈計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計テーマと計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

## 〈設計テーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・3D プリンターによる自動建築システムの構築

## 〈計画テーマ〉

- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究

## 〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。昨年は、秋田犬の発祥の地である秋田県大館市において行いました。合宿期間中に自ら調べ、民家の再生方法や道の駅などをデザインし、最終的には市長はじめ町の役員の前で研究発表を行いました。

また、2011 年度より中国北京の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しており、中国国内の設計コンペに応募するなど国際交流が進められています。

## ● ゼミナールのテーマ

設計・計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。



夏季研究室合宿での見学（秋田県大館市大館樹海ドーム）

## ● 着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

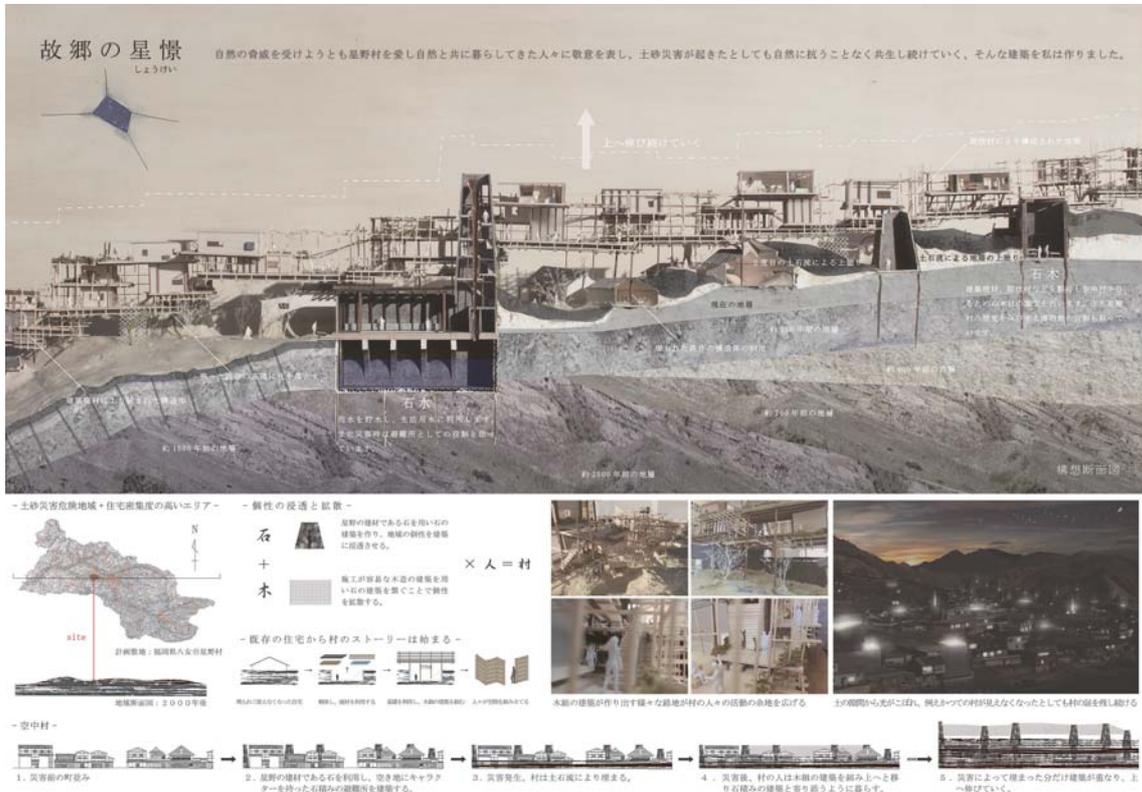
## ● 2015 年度・卒業設計

- 浅見 花：まちなかホスピスのあり方地域の特性を活かしたホスピスの提案
- 千葉雄介：希望の架け橋 EU の言語、文化の教育施設を含めた難民の複合施設の提案
- 中西宏直：郷里の遺産秩父セメント第二工場の空き建築の利用
- 重田秀之：驛上都市 人口減少社会に突入した郊外における立体都市の提案
- 高橋 翔：新宿群中街 新宿ゴールデン街更新計画
- 斉藤賢司：残土の開墾 増え続ける廃棄物の再構築
- 岡 貴史：追億の灯塔水質汚染対策における海上循環型施設の提案
- 森 浩平：渓谷へトポフィリア温泉街再生を目的とした宿泊施設の提案
- 高橋政頼：宇宙からの梯子軌道エレベーターアースポートの設計

## ● 2015 年度・修士設計

- 中山淳雄：国際貨物コンテナを活用したネットワーク水族館の設計
- 望月堅次：静岡県焼津市における新庁舎の設計 一津波防災と観光機能を複合した地域交流拠点の提案
- 遠洞躍斗：地域包括ケアシステムを総合化した複合福祉拠点の提案 一北海道函館市緑の島を活用した施設の設計
- 川崎 将：訪日外国人を対象とした複合医療リゾートの提案 一浜名湖の水辺環境と先進医療を組み合わせた施設の設計 一
- 山川大喜：首都圏における橋の防災拠点化計画の提案 一東京都品川区京浜運河に架かる勝島橋をケーススタディとして 一

## 福岡デザインレビュー 2015 卒業設計展 日本一獲得 (堤 昭文: 故郷の星憬)



以下記事 (<http://www.cst.nihon-u.ac.jp/news/2015/04/22001199.html>)

佐藤信治専任講師のデザイン・建築計画学研究室に在籍していた堤昭文さん(受賞当時4年生)の作品「故郷の星憬」が、「デザインレビュー 2015」にて最優秀賞に選ばれました。

「デザインレビュー」とは、今回で20回を迎え、全国各地の大学、大学院、専門、高専などで建築を学ぶ学生達の意欲的作品の講評を通して、現代建築や都市環境を取り巻く諸問題を議論し、デザインの可能性とリアリティについて、広く意見を交換する場を提供する活動であり、この企画を通じて、各地の大学をはじめとした建築教育の現場、公共や民間の建築関係者、および建築・都市に関心のある多方面の方々を結びつけ、建築

批評全体の質が向上することを期待し、現代の建築・都市デザインに対する刺激となる事を目指しているものです。

今回、3月6日、7日に福岡市の九州大学椎木講堂で「機」をテーマに開催され、堤昭文さんの作品は全国から応募があった約360作品の中で見事最優秀賞に選ばれました。

詳細→[http://kensetsunewspickup.blogspot.jp/2015/03/vs2015.html?fb\\_action\\_ids=1005054412839784&fb\\_action\\_types=og.likes](http://kensetsunewspickup.blogspot.jp/2015/03/vs2015.html?fb_action_ids=1005054412839784&fb_action_types=og.likes)

海洋建築学科のデザイン・建築計画学研究室では、毎日・DAS学生デザイン賞や三菱ケミカル・ジュニアデザイナーアワードなど卒業設計展に出品して日本一になった学生はこれまで5名おり、堤さんはこれらに続く6人目の快挙ということになります。

## Teaching Staff

専任講師  
山本 和清特任教授  
近藤 健雄

## ● 研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「アクセスディンギー」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。



「たてやま海まちフェスタ」アクセスディンギー体験乗船風景



「船橋港まつり」アクセスディンギー体験乗船風景

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業を中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してアクセスディンギーの体験乗船会を実施し（写真1,2）、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

## ● 卒業研究のテーマ

## 【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と「環境・観光・学習」港湾計画
- 2) 防災船着場の有効活用を目指した手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

## 【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

## 【海洋プロジェクト系】

- 1) 海の情報戦略と港湾空間における“Regeneration（再生・復興・復活・改革）”
- 2) Something New Project

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

## ● 着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。

## ● 2015年度・卒業論文（学生氏名・論文名）

- 猪砂良太：災害時におけるLアラート普及の現状と課題に関する基礎的研究  
 軽部翔太：防潮堤整備計画における合意形成に関する研究  
 工藤勇人：災害からの復旧・復興時における地籍調査の有用性に関する基礎的研究  
 佐藤陽一：漁村集落における高齢者の津波避難リスクの軽減に関する研究  
 菊池志帆：沖縄県における自主防災組織結成の現状と共助のあり方に関する傾向分析  
 石原新一：各都道府県を対象としたLアラート運用の現状と課題に関する基礎的研究

## ● 2015年度・修士論文（学生氏名・論文名）

- 藤生拓身：津波災害時における高齢者に対するのLアラートシステムの有用性と避難行動に関する研究

## Teaching Staff

教授  
北嶋 圭二特任教授  
中西 三和

## ● 研究室紹介

構造力学、構造設計、建築防災に関連する下記に示す研究が主要テーマであり、上記スタッフの指導を受けることができる。

## 1. 鉄筋コンクリート (RC) 造建物の耐震性能に関する研究

- ・ 損傷低減のための耐震設計法並びに補強技術の開発
- ・ 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究
- ・ 超高層 RC 造建物の柱梁接合部の構造性能に関する研究
- ・ あと施工せん断補強材によるせん断補強効果に関する研究

## 2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- ・ 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- ・ 滑り基礎構造システムに関する研究
- ・ 折返しプレースを用いた構造システムに関する研究
- ・ 制震構造建物の性能評価・表示法に関する研究
- ・ 間柱型レンズダンパーの研究・開発

## 3. 海洋建築物の構造設計法に関する研究

- ・ 津波漂流物の衝突に関わる研究
- ・ 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究
- ・ 海洋建築物設計指針策定に関わる調査・研究

## 4. その他、企業からの委託研究など

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターのテストフロアや2方向振動台、環境・防災都市共同研究センターの最新設備を用いた建築構造システム並びに建築構造部材の性能に関する実験的研究が多いこと。また、建築物の弾塑性地震応答解析などコンピューターシミュレーション技術を用いた解析的研究が多いことである。テクノプレース 15 に設置されている低温実験室の模型氷海水槽を用いた実験等も行っている。建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか、幅広い分野を対象に研究を行っている。

## ● 卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定する。

## ● ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験  
前期は基礎的な力学の勉強会を行う。また、海洋構造物や陸上の建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるための小型模型実験を行う。実験は学部祭にて公開する。

## ● 着手条件

特になし。

## ● 卒業論文

- 歌田航己・森田洋介：制震構造建物の保有減衰性能評価法に関する研究
- 沖野貴久・齊藤航暉・高梨敦也・高村皓輝：テーパー付き滑り基礎構造建物の加振実験（その1 実験概要／その2 テーパー基礎の効果確認実験／その3 上屋付き試験体の加振実験）
- 金子佳暉・横澤 輝：多数回繰返し荷重を受ける柱梁曲げ耐力比が小さな十字形柱梁接合部の実験（その1 実験概要／その2 実験結果）
- 柴田明奈：津波漂流物の衝突を想定した RC 部材の挙動に関する実験的研究（せん断耐力と曲げ耐力が拮抗する試験体を対象とした実験）
- 末武紘一・中川 茜：低温実験室における尿素模型海水の作製法とその物性
- 水野瑛葉：間柱型レンズダンパーの構造性能実験結果の評価と設計モデル
- 眞鍋久輝：2階建て竹住宅の研究開発

## ● 修士論文

- 菅野裕識：津波漂流物の衝突を想定した RC 部材の挙動に関する実験的研究



大型構造物試験センターで実施した PC ハニカム構造の実験



低温実験室における氷海構造物の実験

## Teaching Staff

教授  
近藤 典夫

## ● 研究室紹介

当研究室は、大スパン構造物や海洋構造物の周辺あるいは都市空間において流体（風、海流、波など）がどのように流れていくのか、そして構造物および人間にどのような影響を与えているのかなどを、コンピュータ・シミュレーションの手法を使って研究活動をしています。研究範囲は地上・海洋空間を問わず、あらゆる空間および興味あるものなら何もかも研究対象に加えていきます。

研究室の活動は、夏合宿、ゼミナール・卒業研究発表会、懇親会などを行い、楽しい一年間を過ごします。



ゼミ・卒研発表会の風景（軽井沢研修所）

## ● 卒業研究のテーマ

卒業研究テーマは以下の通りです。他に希望するテーマでも卒業研究を行うことができます。

## [1] 流体運動

- 1) 構造物まわりの気流の数値的研究
- 2) 構造物の内部を流れる気流の数値的研究
- 3) 乱流の数値的研究
- 4) 大型海洋構造物まわりの海流と波の数値的研究
- 5) 大型貯蔵タンク内のスロッシングの数値的研究
- 6) 都市のヒートアイランドの数値的研究
- 7) 津波の遡上に関する数値的研究

## [2] 構造物の不安定振動

- 1) 風力を受けた構造物の渦励振の数値的研究
- 2) 海洋構造物の渦励振の数値的研究
- 3) 大型浮体構造物の波浪応答に関する数値的研究

## [3] シェル構造解析

- 1) シェル構造物の動的・静的解析
- 2) シェル・空間構造物の減衰特性

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールは卒業研究のための基礎的な事項についての学習

とその応用演習を行い、研究に必要な知識を習得します。内容としては以下の事を予定しています。

- 1) 数値流体力学と弾性力学の全般的な基礎学習
- 2) 有限要素法
- 3) コンピュータ・シミュレーションの仕方
- 4) フォートラン・プログラミング
- 5) 画像処理の方法（アニメーションの作り方）

## ● 着手条件

特に設けていませんが、説明会には必ず出席をして下さい。やる気のある学生、大いに歓迎です。

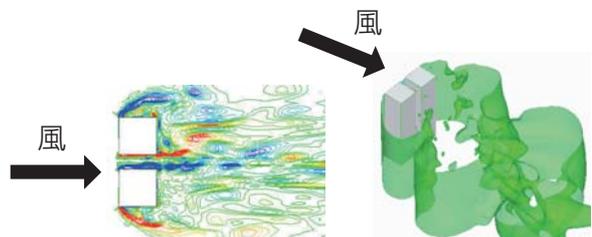
## ● 2015年度・卒業論文（学生氏名・論文名）

- 片岡成嘉：都市のヒートアイランドの数値計算  
 近藤純貴：高スルーツン数域の正方形角柱構造物のギャロッピング振動計算  
 齋藤 魁：並列2円柱の流体力特性に関する数値解析  
 外川信弘：円柱の流れ方向振動に関する3次元数値解析  
 宮本健太：剛体円筒タンク中の液面動揺解析  
 守川 耀：低スルーツン数での角柱のギャロッピング振動解析

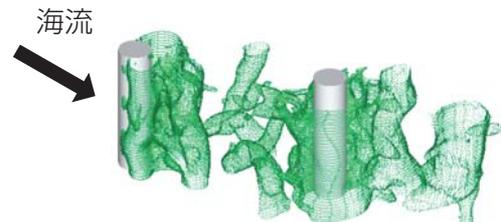
井手佑介：並列2角柱の流体力特性に関する3次元数値解

## ● 2015年度・修士論文（学生氏名・論文名）

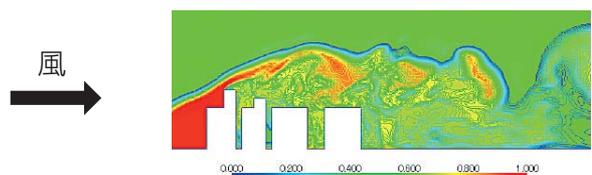
- 関 貴仁：低スルーツン数域の円柱の流力振動に関する数値的研究



卒業研究より：並列2正方形角柱まわりの流れ（渦度、圧力等値面）



卒業研究より：振動している2円柱まわりの流れ（圧力等値面）



卒業研究より：建物群まわりの温度分布（地面が太陽光で温められている。赤色：温度が高い領域、青色：温度が低い領域）



### ● 研究室紹介

**研究のこと：**私たちの研究室では、①ひび割れが生じないために沿岸域の建物に用いても耐久性が極めて高く、②30mを超える大スパン構造を作ることができるためにデザイン性に優れた建物を作ることができる、プレストレストコンクリート構造を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指して研究を進めています。プレストレストコンクリート構造は、東京スカイツリーの心柱に使われ、ザハ案の国立競技場のアーチタイにも使われる予定であった技術です。実用事例は他にもたくさんありますがここでは割愛。私たちの研究室での合言葉は、「世の中に直接役立つ研究をする！」です。これをもうちょっと具体的にいうと、「その成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」ということです。そして、そのためには、独創性が高いだけでなく構造設計者、研究者が使ってみたくなるようなシンプルで信頼性の高い研究成果を生み出す必要があります。私たちがやってきた研究はこの要求をある程度満たしているのではないかと内心密かに自負しています。

**研究室の雰囲気：**堅い話になってしまいましたが、私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員とゼミ生、卒研生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。日常会話の8割が雑談です。ただし、やるときは真剣勝負ですヨ。

### 年間行事

①顔合わせ会：所属が決まったゼミ生が卒研生、院生、教員と親睦を深めるために5月初旬に実施。②夏合宿研究発表会：卒研生、院生が行っている研究の経過を発表するために厳格な雰囲気のなか9月初旬に実施。発表終了後は普段通りの無礼講タイム。③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝うための行事。④随時：めでたいことなどがあれば適宜。

### ● 今期予定の卒業研究テーマ

- 1) 長期荷重が PC 造骨組の地震後の性能に及ぼす影響に関する研究
- 2) プレストレストコンクリート圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法の提案
- 3) プレストレストコンクリート有孔梁の合理的な設計法の開発
- 4) プレストレストコンクリート骨組の柱・梁接合部の応力伝達モデルの開発

- 5) プレストレストコンクリート骨組の耐震設計法に関する研究
- 6) プレキャストプレストレストコンクリート工法を用いた津波避難ビルと高層集合住宅の開発

上記の卒業研究の内、1) は実験を主体としており、フィールドワークが好きなお人に向いています。2) ~6) は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいかもしれません。研究テーマ名だけを見るとわくわく感がないかも知れませんが、君たちが、実際にこれらのテーマに取り組むとはまります。



### ● ゼミナールのテーマ

- 1) マトリクス法による任意形骨組の解析ソフトの開発
- 2) 一級建築士に出題されている構造系科目を解く
- 3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル (CAD、エクセル、パワーポイント) の修得

テーマ1)、2) は、それぞれ週1回私たち教員が担当し、テーマ3) は週2回大学院生が担当しています。ゼミ生はこれらのテーマから少なくとも2つ選択してもらうことになります。3年次には受講しなければならない大切な専門科目が目一杯あるので、そちらにも十分な時間が割けるよう配慮しています。

### ● 着手条件

特に設けていません。構造力学、応用力学の知識はゼロであることを前提とした指導を行いたいと考えています。(2年修了時点で構造力学をちゃんと理解している学生には別途対応します。) 私たちの研究室では、成績最悪の学生がゼミや卒研をやっているうちに研究に目覚め大変身を遂げた例が結構ありました。私たちとしては、君たちにもぜひそうなってほしいのです。

### ● 卒業論文

- 池本 衛、姜 建毅：PC 構造の復元力特性に関する研究  
 田邊元太：PC 骨組の復元力特性に関する研究  
 藤山大輔：PC 造ト型柱梁接合部の応力伝達機構に関する解析的研究  
 阿部 凌、上杉 一二三、王 志鵬、桑原勇二、渡辺啓太：曲げとせん断を受ける PCaPC 柱圧着継目の滑り耐力に及ぼす多数回繰返し載荷の影響に関する実験的研究  
 山崎千菜、豊谷厚史：PCaPC 部材のせん断終局強度に関する研究  
 嶋村直香：円形開口を有する PC 梁の終局強度についての考察

## 海洋空間利用研究室

1341室・1342室

## Teaching Staff

教授  
居駒 知樹准教授  
惠藤 浩朗特任教授  
増田 光一

## ● 研究室紹介

当研究室は海洋建築物、海洋構造物の計画・設計に必要な工学技術と性能の評価方法を開発するという研究活動を行っています。海洋建築物や海洋構造物の種類は多岐にわたり、一見機械的装置である海洋エネルギー利用構造物から船舶、海上医療関連施設まで様々であり、海洋波中での安全性の確保や実現可能性を高めることが当研究室の目標となります。

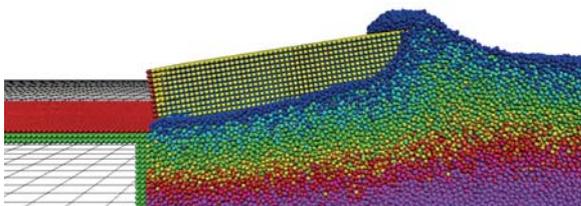
浮体式構造物も着床式構造物も海洋波である波浪や津波の影響を受けるため、設計にそれらを考慮する必要があります。その評価には波や流れなどの流体の影響による揺れや振動といった課題から応力集中や疲労といった構造設計上の課題まで様々です。また、近年では津波に対する沿岸域の防災意識の高まりにより、港湾内に係留される船舶の被災予測からそれによる陸側への被害拡大とその回避についても解決すべき課題となっています。海洋空間を利用した新たな社会を構築するために必要な建築物や構造物の提案を行い、海域あるいはその影響を直接受ける場所に建造されるそれらの実現に必要な設計関連技術全てが当研究室の研究テーマです。

幅広い課題解決を目標としていますが、次のような研究領域が基本となります。

- 1) 海洋波と構造物の相互影響と運動応答性能評価
- 2) 海洋波中の構造物の構造安全性の確保とその評価
- 3) 海からの脅威に対する防災・減災対策の確立
- 4) 海洋空間と資源の有効利用のための技術開発

これらの応用として現在は具体的に次のような研究が実施されています。

<津波防災> 港湾内の係留船舶や陸域の津波・高潮被害がどのようなものであるか、またそれらをどう回避できるのかなどの対策に関連する研究を実施している。その内容は津波による船舶や浮体の陸への漂流を含めた挙動予測からハザードマップ開発であり、人的被害低減のための最適避難経路の推定も



津波時浮体応答シミュレーション

行う。これらの研究は今後の大津波災害のみならず、高潮災害への対策にもなる、沿岸域防災全般に係るテーマである。

<浮体システムの提案> 災害時対応の医療支援浮体や資源確保のための石炭貯蔵・払出浮体基地、海洋エネルギー利用のための構造物など、浮体システムの有利性を考慮した様々な海洋建築物・構造物を提案し、その実現に必要な工学的検討を実施する。



災害時医療支援浮体イメージ

<海洋再生可能エネルギー開発> 振動水柱型を主とした波力発電の性能向上と運動抑制ダンパーシステムとしての応用のための研究や、潮流・海流発電のための高性能水車開発とそれを搭載する浮体システムの研究が行われている。さらに、洋上風力発電を垂直軸風車（以下 3D イメージ：右下）で実現するための浮体の運動応答性能評価を実施している。



波力発電装置（上）と浮体式水車（左下）の実海域実験と浮体式風車

<構造安全性評価> 提案される各種海洋建築物・構造物の構造設計上の課題を抽出しながら、実現に必要な構造安全性評価技術の開発と構造性能評価を実施する。その対象は医療支援浮体や石炭貯蔵浮体、ブラジル北東部におけるジャッキアップ式拠点港のみならず、海洋エネルギー利用のための浮体システムの構造設計上の問題解決まで多岐にわたる。

## 海洋空間利用工学研究室

1341室・1342室



ブラジル北東部におけるジャッキアップ式拠点港

## ●卒業研究のテーマ

研究室紹介に記載した大きな4つのテーマに関して、それぞれのテーマにまたがった横断的な研究テーマも含め、各自の意向に基づいて卒業研究を選択して卒業研究を実施する。

## ●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは卒業研究を実施する上で必要となる基礎的なスキルを身につけるための学習を実施し、研究に必要な知識の修得を目指します。具体的には週1回の講義や演習形式のゼミナールがメインの活動となり各種理論や計算方法を一から学びます。また実際にテクノプレース15に設置されている大型水槽や2016年に新設された津波発生水槽などを利用して海洋建築物・構造物の動揺問題や津波防災、海洋エネルギー開発の現場を、実験を通して体験しながら学びます。



冬合宿（軽井沢研修所にて）



2016年に新設された津波発生水槽

## ●着手条件

特に条件は求めないが、「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生、また大学院への進学希望者を歓迎します。巨大津波に対する備えとして防災や減災、避難に関する研究や更なる海洋再生可能エネルギーの利用や開発、新しいコンセプトとして提案される浮体式建築物の構造計画や構造設計など「海洋建築」に興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。

## ●卒業論文

- 豊川大樹：エージェント行動シミュレーションを用いた津波避難施設の減災効果の評価に関する基礎的研究
- 五十嵐英幸：カタナリー係留された大型石炭貯蔵浮体の動揺特性に関する基礎的研究
- 石田貴寛、松村弘貴：防潮堤後背部にかかる圧力と遡上津波特性との関係に関する基礎的研究
- 石橋栄稔、松本純一：地理情報システムを活用した港湾津波ハザードマップ開発に関する研究
- 岩松幸花：浮体式垂直軸型水車における浮体動揺に関する基礎的研究
- 内堀幹也、望月良平：垂直軸風車がモノカラム浮体の動揺に与えるジャイロ効果に関する基礎的研究
- 内村 翔、松原旭秀：医療支援浮体の構造モデル化に関する基礎的研究
- 王 彦皓、渋谷省吾：二重有孔ケーソンを利用したOWC型波力発電装置の基本特性に関する研究
- 景山 望、李 賛臻：ブラジル北東部におけるジャッキアップ式拠点港の実現可能性に関する基礎的検討
- 金子大介：津波作用時間が港内船舶挙動に及ぼす影響に関する基礎的研究
- 鯨井皓多、劉 鵬：海流発電装置における水平軸水車の性能評価に関する基礎的研究（その1 山中湖での曳航試験、その2 数値解析による算出）
- 久保田充：大型石炭貯蔵浮体の石炭積載状態に応じた波浪中弾性応答解析
- 徐 堅瑞：垂直軸型水車の取り付けフレーム周りの流場特性に関する基礎的研究
- 鈴木祥大：災害時医療支援浮体の波浪中応答特性に基づいた鉛直動揺に関する居住性能評価
- 文道啓太、宮原弘光：大型石炭貯蔵浮体の石炭積載状態に応じた応力解析
- 松岡晃弘：港湾内係留浮体の津波防災対策手法に関する基礎的研究（乗り上げ防止用パラベットの提案と船舶の衝突エネルギーの検討）
- 宮下奈々恵：清水港係留船舶における津波中被害特性に関する基礎的研究

## ●修士論文

- 榎本 修：垂直軸型可変ピッチ翼水車の性能に関する研究—モデル水車のネット性能について—
- 清水 研：波浪応答特性に基づいた災害時医療支援浮体の構造設計に関する基礎的研究
- 高島まどか：浮体式PW-OWC型波浪発電装置の波パワー変換特性に関する研究
- 星野智史：津波による人的被害低減のための対策とその効果に関する基礎的研究

## ●博士論文

- 大野正人：港湾内における作業船の津波被害低減に関する研究
- 木原一禎：高性能振動水柱型波力発電装置のシステム設計法に関する研究
- 佐藤千昭：ボンツーン型海洋構造物の初期計画法に関する基礎的研究



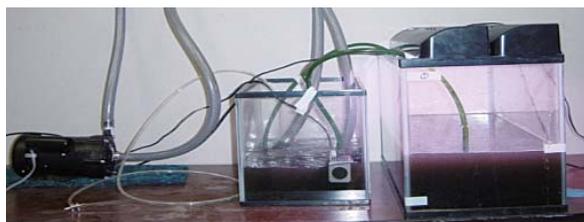
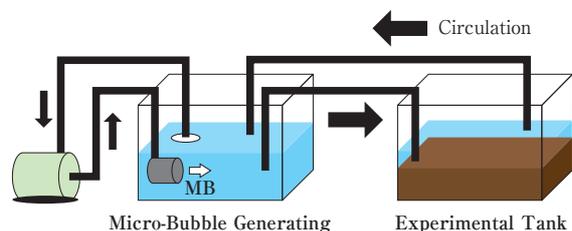
## Teaching Staff

准教授  
岡本 強一

## ● 研究室紹介

本研究室は環境工学に関する調査研究と技術開発を行っています。研究は主に「環境再生」をめざし、生態システムの再生、整備に関する実証実験、環境シミュレーション、モニタリング調査を通じ、沿岸域・海域における豊かで快適な居住環境の実現のための技術開発と研究を行っています。

特に、生物生息環境の改善・修復・創出をするためには、環境工学技術によって人間活動の影響をなくすのではなく、生態系と共生することが重要であり、人間や生態系をシステム全体として取り扱おうとする「生態システム工学」を念頭に、海の「環境再生」を目標にします、また特に、海の除染：堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの除去について研究しています。



循環型浄化システム

## ● 卒業研究のテーマ

## 1. 「実験的手法による環境再生（水質浄化）」

- ・マイクロバブルと微生物による水質浄化（循環型浄化システムを用いた水質浄化）
- 沿岸域の堆積汚泥の浄化
- ・凝集剤を用いた水質浄化
- ・電気分解の原理を用いた水質浄化（東京大学生産技術研究所・北澤先生と共同研究）

## 2. 「海の除染：堆積汚泥に吸着したセシウムの除去」

- ・循環型浄化システムを用いた場合（理工学部物質応用化学学科・遠山先生と共同研究）



夏合宿

- ・ナノバブルと微生物作用による場合（生産工学部環境安全工学科・小森谷先生と共同研究）

## 3. 「環境再生のための環境モニタリング」

- ・海洋環境モニタリングシステムの開発
- その他、学生からの新しいテーマの提案も大歓迎です。

## ● ゼミナールのテーマ

ゼミナールは、勉強会による基礎知識の習得を通して、具体的な卒業研究のテーマの選定を行います。

最終的にゼミ論をまとめてもらいますが、失敗を恐れず、挑戦的なテーマで実験を主体に行っています。これを通して現象の理解を深め、かつ、測定方法の習得をしています。以下が最近のゼミ実験です。

- ・実海域での堆積汚泥の浄化システム
  - ・循環型浄化システムにおける酵素の配合比率
  - ・微生物と凝集剤を用いた新しい浄化システム
  - ・微生物を直接投入した場合の浄化性能 など
- なお、ゼミの出席は重視しています。

## ● 着手条件

研究室説明会に出席して、必ず個人面談を受けて下さい。やる気のある人を優先します。特に、オン、オフのできる人を求めています

## ● 2015年度・卒業論文（学生氏名・論文名）

- 栗原和也、涌井雄介：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥からの放射性セシウム除去 第1報 水質浄化性能
- 荒川高広、小勝太洋：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥からの放射性セシウム除去 第2報 汚泥粒径の性状特性
- 風間博貴、宮本 颯：循環型浄化システムにおいて微生物直接投入による堆積汚泥からの放射性セシウム除去 浄化過程における微生物量の変化
- 小川彩夏、鈴木春香、鈴木 充：ナノバブルを用いた循環型浄化システムにおける堆積汚泥からの放射性セシウム除去
- 片桐健仁：炭電極を用いた電気分解による水質浄化実験 一交番電圧を用いた回路を組み入れた場合の浄化性能一

## Teaching Staff



教授  
小林 昭男



助教  
野志 保仁

## ● 研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、(財)土木研究センターと(独)水産総合研究センターから客員教授を招聘し、企業からも上席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子（ベトナム）

## ● 卒業研究のテーマ

卒業研究の主題は次の通りです。春に現地踏査を行い、これらの主題に沿った海浜を対象にして研究を行います。研究の成果は、必ず社会全体に役立ちます。

## 1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発

## 2. 良好な海洋空間の利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷

## ● ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学びます
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学びます



海岸環境の修復活動（福井県水島）

- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学びます
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学びます
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算法も学べます
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ踏査や調査にも参加できます
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになります
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の方法、海岸の環境問題を学べます
- 9) 懇親の場で先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ場も提供しています



ゼミ生歓迎会の様子

## ● 着手条件

2015年度の卒研生・ゼミ生には、私たちの研究を推進させる人材なると期待しています。海岸地形や海浜環境の再生・修復に興味のある学生なら、だれでもゼミナールや卒研に着手できます。

## ● 2015年度・卒業論文（学生氏名・論文名）

橋本佳樹：那古船形海岸における砂質干潟の地形特性に関する研究

永淵康平：2015年夏季の台風時の高波浪による東条前原海岸の侵食に関する研究

## ● 2015年度・修士論文（学生氏名・論文名）

吉野貴之：礫と砂の含有率が異なる海浜の波浪応答に関する実験的研究

## Teaching Staff

教授  
登川 幸生

## ● 研究室紹介

本研究室では、海洋建築分野において、コンピュータやネットワークを利用したデジタル情報システムに関する研究を展開しています。

誰でもがコンピュータや携帯電話を利用するようになり、それらがネットワークで接続されて、有益な情報を手軽に利用できる社会基盤が整ってきました。これらはすべて、文字、写真、動画などの情報がデジタル化されたことにより実現しています。このような情報社会では、インターネット上や個人、組織の中に膨大なデータが蓄積され続けていますが、どのように処理をすれば新しい知見が得られるのか、まだ解っていません。普段、我々が何気なく使っている情報システムが、どのような技術によって実現しているのかを知れば、そこから新たに便利なシステムを作り上げたり、活用することができます。

現在、海洋分野や建築分野で、情報を適正に扱い、有効に活用できる技術者が求められています。本研究室では、これらのデータの生成、蓄積に寄与するとともに、これらのデータから海洋建築分野における新しい知見を得るための情報処理技術者を育成してきました。

## ● 卒業研究のテーマ

これまで、当研究室で着手してきた次のような研究テーマは、デジタル情報技術を応用したものです。

## ・ 自動車による避難のシミュレーションに関する研究

→ コンピュータ内の仮想空間に地形や道路情報を作り、避難時の自動車の動きを再現して災害時の避難計画に役立てます。

## ・ 画像処理技術を用いた海岸汚染調査手法の研究

→ 海浜の画像から海ゴミなどの海浜環境を汚染する物質を自動的に検出して汚染傾向を把握することにより、海浜環境の保全に役立てます。

## ・ データベースを活用した海洋情報活用に関する研究

→ ネットワークや研究施設等に保存されているデジタルデータと空間情報から、新たな知見を得る基礎データとして役立てます。

## ● ゼミナールのテーマ

・ 本年度は募集しません。

## ● 着手条件

取得単位数・科目等に細かい条件はありませんが、研究室説明会には必ず出席し、教員や大学院生と良く面談して研究室の活動内容を理解してください。また、これまでのコンピュータに対する知識は問いませんが、情報分野に強い興味を持った学生を希望します。協調性があり、「なぜだろう」と思ったらそれを調べる探究心があり、かなり「粘り強い」性格の学生を望みます。

## ● 2013 年度・卒業論文（学生氏名・論文名）

田口将広：海水浴場利用者を対象とした自動車避難時の津波防災意識調査に関する研究

飯盛星州：ネットワークボロノイ分割を用いた避難施設の配置についての検討 千葉県長生郡の沿岸部を対象として

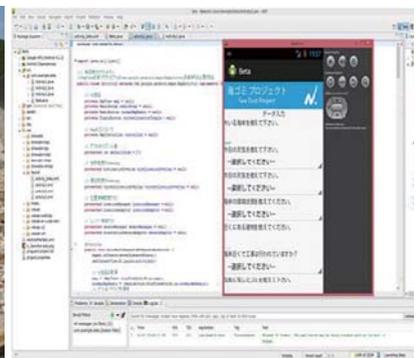
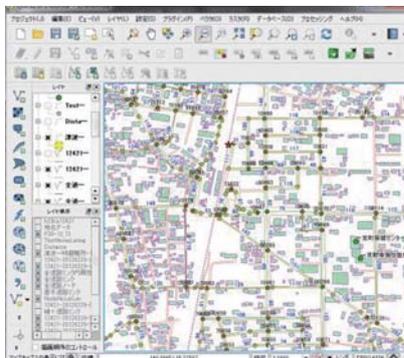
林 大樹：自動車避難シミュレーションの効果的な可視化システムの開発

腰野達也：津波避難場所の駐車可能台数を考慮した自動車避難計画に関する研究

湯浅貴光：海水浴場利用者を対象とした津波避難シミュレーションに関する研究

## ● 2015 年度・修士論文（学生氏名・論文名）

佐藤寛深：来訪者を考慮した津波襲来時の自動車避難シミュレーションに関する研究



畔柳・菅原研究室

審査付論文

- ◆青木秀史・畔柳昭雄：荒川流域における水屋・水塚を備えた屋敷の立地状況とその空間変容に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第80巻 第710号, pp.851-861, 2015.5
- ◆菅原遼, 市川尚紀, 畔柳昭雄：都心部の社会実験に見る事業スキームに関する研究, 沿岸域学会誌, 第28巻 第1号, pp.61-70, 2015.6
- ◆安彦智啓, 畔柳昭雄, 坪井聖太郎：津波避難ビルとしての集合住宅の規模的特徴及び地域的傾向に関する研究, 日本建築学会技術報告集, 第21巻 第48号, pp.859-864, 2015.6
- ◆菅原遼, 畔柳昭雄：日本城市河流水空間營造動向—水畔社会実験—, 2015(第3回) 中国水生大会 2015 城市景観河湖/小流域総合治理与生態修復大会論文集, pp.236-241, 2015.7
- ◆楊元園, 菅原遼, 畔柳昭雄：日本治水建設経緯, 2015(第3回) 中国水生大会 2015 城市景観河湖/小流域総合治理与生態修復大会論文集, pp.251-255, 2015.7
- ◆菅原遼：大岡川下流域の河川利用に見られる地域連携の特徴, 環境情報科学 学術研究論文集 292, pp.219-224, 2015.1

口頭発表・ポスター発表

- ◆小海諄, 畔柳昭雄, 菅原遼：多自然川づくりによる河川整備と背後の土地利用に見る緑の変化, 第12回環境情報科学ポスターセッション, 2015.12
- ◆轟朝幸, 伊澤輝, 江守央, 川崎智也, 畔柳昭雄, 居駒知樹, 青木義男：(シンポジウム報告) 水上空間ネットワークによる交通イノベーション—全国津々浦々の地方創生に果たす役割—, 第59回日本大学理工学部学術講演会 特別セッション, 2015.12
- ◆楊元園, 畔柳昭雄, 菅原遼：Analysis of Water Conservancy Policy in Zhejiang Province, China-Total of Five Water Treatment-, 第59回日本大学理工学部学術講演会, 2015.12
- ◆安彦智啓, 畔柳昭雄, 菅原遼：津波災害時における緊急避難場所としての学校施設に関する研究—三重県沿岸19市町を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆竹内寛偉, 畔柳昭雄, 菅原遼：東京都海上公園の利用傾向に関する研究—芝浦南ふ頭公園を事例とした行動観察を通じて—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆田中雄基, 畔柳昭雄, 菅原遼：新規整備された施設にみる津波避難ビルの建築計画—地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的な研究—その5—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆横田憲寛, 畔柳昭雄, 菅原遼：全国における水防建築の文化財指定に関する調査研究—水害常襲地帯に芽生えた災害文化の継承に関する基礎的研究—その1—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆飯塚智哉, 横田憲寛, 畔柳昭雄, 菅原遼：三重県南牟婁郡紀宝町高岡地区における河川事業と住居変遷に関する調査研究—水害常襲地帯に芽生えた災害文化の継承に関する基礎的研究—その2—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆大川薫平, 畔柳昭雄, 菅原遼：都市内における貧困密集地区の生活改善に関する調査研究—フィリピン・セブシティ・バランガイ・ルス地区を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆佐久間大和, 畔柳昭雄, 菅原遼, 桜井慎一：海水浴場における環境保全協力金の支払意思額に関する研究—神奈川県逗子海水浴場を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆大野真由美, 畔柳昭雄, 菅原遼：日本における海事博物館に関する基礎的研究, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆加藤千尋, 畔柳昭雄, 菅原遼：旧東家枝川町住宅に関する調査研究, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆深草安那, 畔柳昭雄, 菅原遼：水関連の用語を持つ集合住宅の立地分布から見た水辺の影響範囲—東京都足立区を事例として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション, 2015.12
- ◆吉本弘太, 畔柳昭雄, 菅原遼, 佐久間大和：海水浴場における規制の傾向の

把握に関する研究—神奈川県を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション, 2015.12

- ◆楠瀬大志, 畔柳昭雄, 菅原遼：発展途上国の湖における住居の形態・建材から見た生活様式の調査研究—その1— ミャンマー・インレー湖を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション, 2015.12
- ◆江田拓海, 畔柳昭雄, 菅原遼：発展途上国の湖における住居の形態・建材から見た生活様式の調査研究—その2— カンボジア・トンレサップ湖を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション, 2015.12
- ◆植松脩人, 畔柳昭雄, 菅原遼：発展途上国の湖における住居の形態・建材から見た生活様式の調査研究—その3— ベルーチチカカ湖・ウロス島を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション, 2015.12
- ◆水場信人, 畔柳昭雄, 菅原遼：沿岸海域における海洋建築物の事例収集と用途・機能に関する基礎的研究—イギリス・フランス・ドイツ・ベルギーを対象地域として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション, 2015.12
- ◆宮川駿也, 畔柳昭雄, 菅原遼：海洋建築物の事例に関する研究—1999年と2015年の比較：閉鎖施設に着目して—, 第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション, 2015.12
- ◆菅原遼, 畔柳昭雄：河川利用における地域連携のあり方に関する研究—大岡川下流域の接岸施設に着目して—, 日本建築学会大会(関東)学術講演会 都市計画, pp.159-160, 2015.9
- ◆竹内寛偉, 畔柳昭雄, 菅原遼：海上公園における平面構成と構成要素から捉えた空間構成に関する研究—ふ頭公園を対象として—, 日本建築学会大会(関東)学術講演会 都市計画, pp.915-916, 2015.9
- ◆青木秀史, 横田憲寛, 畔柳昭雄：水害常襲地帯における建築的な水害対応—水害常襲地帯に見る水防建築のあり方に関する研究—その1—, 日本建築学会大会梗概集(関東), pp.57-58, 2015.9
- ◆横田憲寛, 青木秀史, 畔柳昭雄：水害常襲地帯における浸水特性に対する減災対策に関する調査研究—水害常襲地帯に見る水防建築のあり方に関する研究—その2—, 日本建築学会大会梗概集(関東), pp.59-60, 2015.9
- ◆安彦智啓, 畔柳昭雄：津波避難ビルとしての集合住宅の立地傾向と施設規模に関する研究—静岡県浜松市を対象として—, 日本建築学会大会梗概集(関東), pp.49-50, 2015.9
- ◆佐久間大和, 大川薫平, 菅原遼, 畔柳昭雄：「浮体式災害時医療支援システム」構築に関するコンセプト研究, 日本建築学会大会梗概集(関東), pp.53-54, 2015.9
- ◆畔柳昭雄, 増田光一, 小林昭男, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 菅原遼：浮体式構造物を活用した水面空間利用の動向—海洋空間の有効利用のための超大型浮体式構造物に関する調査研究—その1—, 第25回海洋工学シンポジウム講演論文集, OES25-133, 2015.8
- ◆畔柳昭雄, 菅原遼：Proposal of the new method of using the beach [beach × bamboo]-Creation of recreation space in the Bamboo Pergola-, 第8回日韓シンポジウム, 2015.8
- ◆畔柳昭雄, 菅原遼：Research theme chronology, 第8回日韓シンポジウム, 2015.8

著書・執筆等

- ◆畔柳昭雄, 菅原遼：六角舎HP “竹材を使って、水辺を賑わす、竹のパーゴラ製作・設置イベント告知” 活動紹介, 2015.7.16
- ◆畔柳昭雄, 菅原遼：徳島新聞地域・NIE面 “竹活用し日よけ制作” インタビュー, 2015.7.17
- ◆畔柳昭雄：NHK World News “DESIGNING YOUR FUTURE” 作品紹介, 2015.10.28
- ◆畔柳昭雄：GIZMODO “プロも顔負け？学生によるアイデアあふれる展示たち” 作品紹介, 2015.10.26

作品

- ◆畔柳昭雄：Bamboo Pergola, ODAIBA ビーチスポーツフェスティバル 2015, 2015

## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆畔柳昭雄：Bamboo Pergola, [竹のパーゴラ] in 牟岐町 製作・設置ワークショップ（総務省地域おこし隊）, 2015
- ◆畔柳昭雄：Bamboo Pergola, ビーチスポーツフェスティバル京丹後, 2015
- ◆畔柳昭雄：一瞬亭 茶事到来, TOKYO DESIGN WEEK ASIA AWARDS 学校作品・学生展, 2015

### 受賞

- ◆畔柳昭雄＋親水工学研究室：一瞬亭 茶事到来, TOKYO DESIGN WEEK ASIA AWARDS 学校作品・学生展 学校賞入選
- ◆畔柳昭雄＋親水工学研究室：一瞬亭 茶事到来, TOKYO DESIGN WEEK ASIA AWARDS 学校作品・学生展 株式会社ウッドワン賞
- ◆小海諄, 大川薫平, 佐久間大和：関係人口の拡大を図る一自由な場所に移動する「私」と「 $t^2$ 」, SUS「 $t^2$ 住むためのプロダクト」Competition'15 佳作
- ◆畔柳昭雄：一瞬亭, Barrierless City Award & Competition 2015 一旅行者に優しいデザイン 実作部門優秀賞

### 学外活動（講演・講師等）

- ◆畔柳昭雄：海域システム講座「海洋プロジェクト」, 特別招聘講師, 香川大学工学部安全システム建設工学科, 2015.7
- ◆畔柳昭雄：環境工学講座「親水工学計画について」, セブ工科大学, 土木工学科, 2015.7.24
- ◆畔柳昭雄：韓国海洋大学校海洋空間建築学科「学科設立20周年記念国際学術セミナー「海洋建築に見る自然災害への対応」」講演, 2014.9.23

### 学外活動（学会名・委員会名）

#### 【教授 畔柳昭雄】

- ◆日本建築学会：水辺の公私計画論検討小委員会（委員）
- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会 海洋建築フィールド小委員会（委員）
- ◆環境情報科学センター企画委員会（委員）
- ◆環境情報科学センター賞選考委員会（委員）
- ◆海洋工学会 理事
- ◆日本水産工学会（評議員／学協会等連絡担当委員）

- ◆神奈川港湾審議会（会長）
- ◆千葉県魅力ある建設事業推進協議会（委員）

#### 【助手 菅原遼】

- ◆日本建築学会：水辺の公私計画検討小委員会（委員）
- ◆日本建築学会：海洋建築委員会（委員）・津波建築システム小委員会（委員）
- ◆一般社団法人水辺荘（理事）

### 海外出張・海外調査

- ◆畔柳昭雄：海洋空間利用のための海洋構造物に関する調査, シンガポール, 2015.5.16-19
- ◆畔柳昭雄：韓国海洋大学校海洋空間建築学科との学術交流, 韓国釜山, 2015.6.9-10
- ◆畔柳昭雄, 菅原遼：バランガイ・ルス地区における住居形態の予備調査, フィルピンセブ市, 2015.7.23-26
- ◆畔柳昭雄：科研費 洪水常襲地帯における水防建築の空間的設えと生活様式のあり方の関する研究の現地調査, 中国湖南省鳳凰古城・張家界市, 2015.8.13-8.19
- ◆畔柳昭雄, 菅原遼：「2015（第3回）中国水生大会 2015 城市景観河湖／小流域総合治理与生態修復大会」での研究発表, 中華人民共和国 杭州市, 2015.7.29-31
- ◆畔柳昭雄：韓国海洋大学校海洋空間建築学科設立20周年記念講演, 韓国釜山, 2016.9.22-24
- ◆畔柳昭雄：海洋空間利用における浮体式構造物の現状調査, 中国上海市・青島市, 2015.11.5-11.8
- ◆畔柳昭雄：成功大学水工試験所「海洋空間利用における浮体式構造物に関する研究討論, 台湾台南国立成功大学水工試験所, 2016.1.30-2.2

### 研究助成・委託研究

- ◆畔柳昭雄：科研費 2014年度基盤研究（C）一般：洪水常襲地帯における水防建築の空間的設えと生活様式のあり方に関する研究, 2014.4～2017.3
- ◆畔柳昭雄：27年度理工学部プロジェクト研究助成金「海洋空間の有効利用のための超大型浮体式構造物に関する調査研究」, 2015.4～2016.3

## 桜井研究室

### 審査付論文

- ◆鷹島充寿, 桜井慎一：市民が望む調整池の親水公園化整備に関する研究—常時滞水型調整池に対するアンケート調査およびコンジョイント分析結果—, 日本建築学会計画系論文集, Vol.80, No.711, pp.1139～1146, 2015.5
- ◆秋本悠喜, 桜井慎一：教訓を後世に伝承する津波碑の保存整備に関する研究, 沿岸域学会誌, Vol.28, No.3, 日本沿岸域学会, 2015.12

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆鷹島充寿, 桜井慎一：魚市場一般開放化の利点と課題に関する研究—全国の魚市場に対するアンケート調査結果—, 2015年度日本沿岸域学会研究討論会講演概要集, CD-ROM版, 論文番号3-2, 2015年7月
- ◆渡邊 亮, 桜井慎一, 鷹島充寿：津波ハザードマップの記載・表記内容の統一性に関する研究—静岡県19市町を対象とした考察—, 2015年度日本沿岸域学会研究討論会講演概要集, CD-ROM版, 論文番号7-6, 2015年7月
- ◆佐久間大和, 畔柳昭雄, 菅原 遼, 桜井慎一：海水浴場における環境保全協力金の支払意思に関する研究—神奈川県逗子海水浴場を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会講演論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆渡邊 亮, 桜井慎一, 鷹島充寿：津波ハザードマップの記載・表記内容の統一性に関する研究—作成方法に関する都道府県から市町村への指示状況—, 第59回日本大学理工学部学術講演会講演論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆田島実季, 桜井慎一：親水公園における擬木の適正利用に関する研究, 第59回日本大学理工学部学術講演会講演論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆森田達也, 桜井慎一：河川利用者を対象とした水難事故の危機意識調査, 第59回日本大学理工学部学術講演会講演論文集, 海洋建築系部会, 2015.12

- ◆寺内将貴, 桜井慎一, 横山巧：西日本太平洋沿岸地域における津波避難タワーの整備実態と課題, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 講演番号10005, 2015.9
- ◆大津俊裕, 桜井慎一, 秋本悠喜：博物館施設を対象とした文化財の津波防災に関する研究—静岡県・和歌山県・高知県を対象として—, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 10007, 2015.9
- ◆野口 翔, 桜井慎一, 寺内将貴：津波が河川を遡上した際の避難対策に関する研究, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 10008, 2015.9
- ◆佐俣良平, 桜井慎一, 寺内将貴：浸水予想区域内の線路が津波避難行動に及ぼす影響に関する研究, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 講演番号10009, 2015.9
- ◆鷹島充寿, 桜井慎一, 池上信太郎：津波避難シェルターの普及の可能性に関する研究, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 10010, 2015.9
- ◆坂本真理, 桜井慎一, 鷹島充寿：工場夜景クルーズの実態に関する研究—10企業に対するアンケート調査結果—, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 講演番号10015, 2015.9
- ◆高橋奎太郎, 桜井慎一, 寺内将貴：条例改正が海の家へ及ぼす影響に関する研究—神奈川県逗子海水浴場の海の家を対象としたアンケート調査—, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 10016, 2015.9
- ◆田島実季, 桜井慎一, 秋本悠喜：ウォーターフロントにおける擬木の適正利用に関する研究—写真を用いた景観分析—, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 講演番号10017, 2015.9
- ◆畠山北斗, 桜井慎一, 鷹島充寿：河岸道における自転車利用者と歩行者の共存に関する研究, 日本建築学会大会梗概集（関東）, 10018, 2015.9
- ◆笹川泰佑, 桜井慎一, 鷹島充寿：閉鎖性海域における海面・海底ゴミの清掃

## 教員研究業績 研究室活動業績

実態に関する研究－東京湾および瀬戸内海を対象としたヒアリング調査結果－、日本建築学会大会梗概集（関東）、10019、2015.9

- ◆渡邊 亮、桜井慎一、鷹島充寿：荒川洪水ハザードマップの記載・表記内容の統一性に関する研究－ハザードマップが公表されている東京都12区を対象とした考察－、日本建築学会大会梗概集（関東）、10026、2015.9
- ◆秋本悠喜、桜井慎一、渡邊祥太郎：海洋エネルギー施設をめぐる漁業者との調整に関する研究、日本建築学会大会梗概集（関東）、10043、2015.9

### 表彰・受賞

- ◆渡邊 亮：日本沿岸学会、研究討論会2015優秀講演賞受賞、2015年11月9日

### 社会活動

- ◆桜井慎一：船橋市開発審査会（会長）
- ◆桜井慎一：横須賀市西地区漁港海岸整備計画策定検討委員会（委員長）
- ◆桜井慎一：船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会（委員）

- ◆桜井慎一：臨海部都市再開発研究会（委員）

- ◆桜井慎一：文部科学省科学技術動向研究センター科学技術専門家ネットワーク専門調査員

### 研究費

- ◆桜井慎一：研究奨励寄付金、都心臨海部における新たな事業手法の検討、一般社団法人クルーザーパークヨコハマ、2015年4月

### 学会活動

- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築企画小委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築計画小委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・津波建築システム小委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築用語事典改訂準備WG（委員）
- ◆桜井慎一：日本沿岸学会・論文集編集委員会（委員）

## 佐藤研究室

### 審査付論文

- ◆佐藤信治：藻類海洋バイオマスを取り入れた地域モデル－海洋プラットフォームの利活用による複合植物工場の提案－、電気学会、電気学会誌135(10)、696-700、2015.

### 口頭発表・ポスター発表

- ◆Sato Shinji et al：Design of floating sea farms -Proposal of research and development type of plant factory that assumes the complex use-、第8回日韓シンポジウム2015.8
- ◆岡 貴史、佐藤信治：水質汚染対策における海上循環型施設の提案、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆森 浩平、佐藤信治：渓谷へのトポフィリア－温泉街再生を目的とした温泉療法を用いた建築の提案－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆斎藤賢司、佐藤信治：残土の開墾－増え続ける廃棄物の再構築－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆佐藤信治、高橋政頼：宇宙からの梯子－軌道エレベーター－アースポートの設計－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆千葉雄介、佐藤信治：冀望の群島－地中海における自給自足による難民の自立を促す提案－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆佐藤信治、中西宏直：郷里の遺産－秩父セメント第二工場の空き建築の利用－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆佐藤信治、重田秀之：緑のダム、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆佐藤信治、今村夏波、染谷萌衣：社の空間構成に関する研究 その8－神社の水上鳥居とその参道空間について－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆佐藤信治、高橋 翔：源水都市－雑居ビルの防火と治水を利用した新たな都市の形成－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆椿 礼、佐藤信治：東京湾口道路上における東京湾物流拠点の提案－物流ターミナル施設、複合施設の設計－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆川崎 将、佐藤信治：統合型医療リゾート施設の提案－浜名湖における訪日医療観光客を対象とした新たな国際観光資源の創造－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆佐藤信治、遠洞耀斗：北海道函館市における地域福祉施設の提案－地域包括ケアシステムに基づく福祉施設拠点の計画－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12
- ◆佐藤信治、山川大喜、出山 亮、斎藤賢司、重田秀之、衛藤成波、谷 醒龍、

新部瑠介：老若住店街－シェアハウスと地域包括ケアシステムを用いた大町地区の未来－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆佐藤信治、中山淳雄：国際貨物コンテナを利用したモバイルアクアリウムの提案、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆佐藤信治、川崎 将、滝村菜香、高橋政頼、中西宏直、門口稚奈、蒲生良輔、濱嶋社人：大館灯籠商店街－秋田県大館市御成町における杉を使った新たな商店街の提案－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆佐藤信治、山川大喜：橋の防災拠点ネットワークの提案－品川区八潮地区勝島橋をケーススタディとして－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆佐藤信治、佐々木秀人、望月堅次、浅見 花、今村夏波、高橋 翔、千葉雄介、永富 快：犬と歩けば－秋田県大館市における秋田犬を用いた商店街活性化計画－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆佐藤信治、望月堅次：静岡県焼津市新市庁舎の提案－市民と観光客に開かれた観光防災型庁舎としての計画－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆山影悠時、佐藤信治：大館市“城”舎－大館市象徴の再編－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆浅見 花、佐藤信治：生命の活性化－地域の特性を活かしたホスピスの提案－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆佐藤信治、中山淳雄、椿 礼、志萱侑太、染谷萌衣、福富大真、宮島悠輔、山本雄太郎、岡 貴史：オオダテでオソダテ－大館における教育ブランドの確立と促進－、第59回日本大学理工学部学術講演会ポスター発表セッション、2015.12

- ◆出山 亮、佐藤信治：250m 共同体 一次世代型エネルギー施設による木密更新の提案－、日本建築学会大会梗概集（関東）、2015.9

- ◆志萱侑太、佐藤信治：働器物－働く高齢者の未来の構築－、日本建築学会大会梗概集（関東）、2015.9

- ◆涌井 匠、佐藤信治：浮体式海上農場の設計－複合利用を想定した研究開発型の植物工場の提案－、日本建築学会大会梗概集（関東）、2015.9

- ◆滝村菜香、佐藤信治：水たまりを遊ぶ、日本建築学会大会梗概集（関東）、2015.9

- ◆山影悠時、佐藤信治：家路（まち）起こし－北區志茂地区における木密地域新規保存計画－、日本建築学会大会梗概集（関東）、2015.9

### 著書・執筆等

- ◆佐藤信治ほか編・著：住宅課題賞2015「建築系大学住宅課題賞作品展」、

株式会社総合資格, 2015年7月8日

- ◆佐藤信治ほか編・著: OASIS 加盟校学生作品集「2015年度版」, エーアンドエー株式会社, 2015年8月28日
- ◆佐藤信治他 編・著: 空間デザインを学ぶ, (株)DTP 出版, 2015年9月24日
- ◆佐藤信治 他著: 第12回 JIA 関東甲信支部大学院修士設計展, (株)総合資格学院, 2015年3月10日

—— 作 品 ——

1. 卒業設計

- ◆第47回 DAS・毎日デザイン賞 (主催: 毎日新聞社 一般社団法人総合デザイナー協会 共催: 大阪デザイン振興プラザ 応募総数: 約80点) 入賞: 滝村菜香 入賞: 出山亮 入賞: 藤本幸汰
- ◆第27回千葉県建築学生賞 (主催: 千葉県建築学生賞協議会 応募総数: 16点) 特別賞 (JIA 全国出展): 山影悠時 奨励賞・市民賞2位: 志萱侑太
- ◆卒, 15 (主催: 卒, 15 実行委員会 募集期間: 2月19日 応募総数: 約40点) 審査委員賞 (藤村龍至賞): 山影悠時
- ◆卒業設計日本一決定戦 2015 (主催: 仙台建築都市学生会 せんだいメディアアーク 募集締切: 1月30日 応募総数: 350点) 100選: 山影悠時 100選: 志萱侑太
- ◆福岡デザインレビュー 2015 (主催: 福岡デザインレビュー 2015 実行委員会 共催: 公社日本建築家協会九州支部 募集締切: 2月20日 応募総数: 260点) 最優秀賞: 堤昭文
- ◆赤レンガ卒業設計展 2015 (主催: 赤レンガ卒業設計展実行委員会 共催: 株式会社総合資格 応募総数: 約200点) 審査委員賞 (中山英之賞): 滝村菜香
- ◆第38回学生設計優秀作品展 (主催: 学生設計優秀作品展組織委員会 レモン画翠 共催: 一般社団法人日本建築学会 他16法人 応募締切: 5月26日 応募総数: 84点) レモン賞: 堤昭文
- ◆建築学会発表大会建築デザイン発表会 (主催: 一般社団法人日本建築学会 募集締切: 4月7日) 審査委員賞 (篠原聡子): 山影悠時
- ◆MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015 (主催: MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 実行委員会 共催: 三菱化学株式会社 株式会社三菱ケミカルホールディングス 募集締切: 5月30日 応募総数: 177点) 入選: 志萱侑太 入選: 山影悠時

2. 建築学会コンペ

- ◆日本建築学会建築文化週間学生グランプリ 2015 (主催: 一般社団法人日本建築学会 共催: 全銀座会 募集締切: 8月5日 応募総数: 約40点) 一次審査 審査員賞 (辻琢磨賞) 二次審査 (入選): 志萱侑太 重田秀之 高橋翔 千葉雄介 中西宏直 濱島杜人

3. その他のコンペ

- ◆日本造園学会 90周年記念全国大会 U-30 国際アイデアコンペティション (主催: 公益社団法人日本造園学会 募集締切5月12日 応募総数: 631点) 佳作: 森浩平 杉田陽平 松井創斗
- ◆Floating City Project Architectural Design Contest 佳作: 佐藤信治 + 佐藤信治研究室
- ◆シェルター-インターナショナル学生設計競技 2015 (主催: 株式会社シェルター 募集締切: 9月11日 応募総数: 199点) 一次予選通過: 出山亮 森浩平 蒲生良輔
- ◆第9回 JACS 住宅設計コンペ 2015 (主催: JACS 全日本学生建築コンソー

シアム 共催: 株式会社イシカワ 株式会社ステーツ 株式会社 LIXIL 双日建材株式会社 タカラスタANDARD株式会社 他60社 募集締切: 7月31日 応募総数: ) 特別賞 (長谷川豪賞): 速洞躍斗 滝村菜香 小貫笑美依 佐々木秀人 佳作: 志萱侑太

- ◆横浜市の海を活かしたまちづくりコンペ (主催: 一般財団法人みなと総合研究財団 共催: 横浜市港湾局 国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所 募集締切: 9月4日 応募総数: 3点) 最優秀賞: 高橋翔 千葉雄介 中西宏直 今村夏波
- ◆公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション (主催: 総務省 募集締切: 9月30日 応募総数: 約100点) 実施採択: 川崎将
- ◆桜建会コンペティション (主催: 日本大学桜門建築会 共催: 株式会社総合資格 募集締切: 9月30日 応募総数: 38点) 佳作: 出山亮 森浩平 蒲生良輔
- ◆歴史的空間再編コンペティション (主催: 歴史的空間再編コンペティション 実行委員会 共催: 株式会社総合資格 株式会社国土開発センター 他10社 募集期間10月23日 応募総数: 約200点) 10選: 出山亮 20選: 速洞躍斗 山影悠時 森浩平 上田紗矢香 小貫笑美衣 50選: 川崎将 滝村菜香 高橋政頼 中西宏直 門口雅奈 蒲生良輔 濱嶋杜人
- ◆第13回主張する「みせ」学生デザインコンペ (主催: 公益社団法人商業施設技術団体連合会 応募締切: 12月4日 応募総数: 420点) 審査委員特別部門賞: 志萱侑太 山本雄太郎
- ◆第1回学生アイデアコンペティション「共のレシピ」 (主催: 一般社団法人日本建築協会 U-35 委員会 募集締切: 2月8日 応募総数: 不明) 特別賞: 山川大喜 志萱侑太 千葉雄介

—— 受 賞 ——

- ◆涌井匠: 日本大学部科校長賞 2015.03.25
- ◆蒲生良輔: 住宅課題賞 2015 建築系大学住宅課題優秀作品展 竹中工務店 京本店ギャラリーエークウッドホール 2015年11月4日~11月21日
- ◆濱嶋杜人: 第7回 Vectorworks 教育シンポジウム 2015「森の水族館」作品展 大手町サンケイプラザ 2015年8月28日

—— 学外活動 (講演・講師等) ——

- ◆佐藤信治: 大館市の未来について日本大学の学生と考えました, 於: 秋田県大館市総合会館2階ホール, 2015年9月10日, 講演会講師

—— 学外活動 (学会名・委員会名) ——

- ◆(社)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会 委員
- ◆(社)日本建築学会 JABEE 学部課程 (建築学・建築学関連分野) 認定審査委員会 審査委員
- ◆(社)日本建築学会 JABEE 修士課程 (建築学・建築学関連分野) 認定審査委員会 審査委員
- ◆(社)東京建築士会
- ◆千葉県産学連携建築連絡協議運営委員会 委員
- ◆千葉県建築学生賞 運営委員会委員
- ◆秋田産業サポータークラブ委員会 委員
- ◆(社)海洋環境創生機構運営委員会 委員

—— 海外出張・海外調査 ——

- ◆佐藤信治, 台湾, 2015年3月21日~24日, Taipei International Convention Center (TICC), Danjiang Bridge International Competition Conference

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 山本研究室

#### 審査付論文

- ◆ Koji Takahashi and Takeo Kondo, Smooth Reception Policy of Port Facilities On case of Ocean Space Utilization, Proceedings of the ASME 2015 34th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2015, OMAE2015-41026, 2015.6

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆ 藤生拓生・山本和清・近藤健雄：災害時における高齢者に対するのアラートの有用性と避難行動に関する研究—千葉県安房郡鋸南町の行政と住民を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 菊池志帆・山本和清・近藤健雄：沖縄県における自主防災組織結成の現状と共助のあり方に関する基礎的研究, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 工藤勇人・山本和清・近藤健雄：災害からの復旧・復興時における地籍調査の必要性に関する調査研究—神奈川県及び岩手県の沿岸地域を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 佐藤陽一・山本和清・近藤健雄：漁村集落における高齢者の避難リスクの軽減に関する研究—三重県度会郡南伊勢町榎柄浦を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 猪砂良太・山本和清・近藤健雄：災害発生時におけるアラートの効果的運用に関する基礎的研究—千葉県安房郡鋸南町を対象として—, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 三好隆正・山本和清・近藤健雄・伏谷洋俊：東日本大震災を契機とした巨防防潮堤建設における住民の意識の変化に関する研究, 日本建築学会大会梗概集(関東), 10006, pp.11-12, 2015.9
- ◆ 藤生拓生・山本和清・近藤健雄・津田慎一郎：マリナーの減災対策と災害支援マリナー登録制度に関する研究—関東に所在する6ヶ所の登録マリナーを対象として—, 日本建築学会大会梗概集(関東), 10024, pp.47-48, 2015.9
- ◆ 藤生拓生・山本和清・近藤健雄・鈴木翔馬・元木優甫：東京湾(千葉県・神奈川県)における企業のBCPに関する基礎的研究, 日本沿岸域学会研究討論会2015講演概要集No.28, 5-5, 2015.7
- ◆ 三好隆正・山本和清・近藤健雄・福島弘明：静岡県東部における大規模災害に対する自主防災組織の構築に関する研究—自主防災組織活動内容に着目して—, 日本沿岸域学会研究討論会2015講演概要集No.28, 11-2, 2015.7

#### 学外活動(講演・講師等)

##### 【特任教授 近藤健雄】

- ◆ 「海を活かしたまちづくりの仕組み〜プレジャーボートの視点から〜」, 平成28年度マリン事業協会講演会, 丸の内マイプラザホール, 平成28年1月14日
- ◆ 「港湾都市のリジェネレーション」, みなと総研フォーラム, 虎ノ門ツインビルディング, 平成28年1月26日

#### 学外活動(学会名・委員会名)

##### 【専任講師 山本和清】

- ◆ 日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員

- ◆ 日本福祉のまちづくり学会・身体と空間特別研究委員会 委員
- ◆ 千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆ 東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆ (一社) みなと船橋振興協会 理事
- ◆ 東京湾再生官民連携フォーラム・江戸前ブランドPTメンバー

##### 【特任教授 近藤健雄】

##### 学協会等の役員

- ◆ (一財) 漁港漁村漁場総合研究所 評議員
- ◆ (一財) みなと総合研究財団 未来のみなとづくり助成 審査委員
- ◆ (一財) みなと総合研究財団 客員研究員
- ◆ (一財) 国際臨海開発研究センター 役員選定委員
- ◆ (一財) 海域環境研究機構 理事
- ◆ (一財) 港湾空港総合技術センター 役員選定委員
- ◆ (一財) 海洋レジャー安全・振興協会 海の駅ネットワーク協議会 理事
- ◆ (一社) みなと船橋振興協会 会長
- ◆ (一社) 日本マリナー・ビーチ協会 参与
- ◆ (NPO) 海の学体験活動協議会 顧問
- ◆ (NPO) 沿岸開発機構・千葉 副会長
- ◆ (NPO) 大阪湾みなとまち生活文化研究センター 理事長

##### 委員会等

##### ＜国関係＞

- ◆ 国土交通省・環境省・農林水産省共管：自然再生専門家会議 専門委員

##### ＜都県関係＞

- ◆ 茨城県土木部 ポートパーク指定管理者選定委員会 委員長
- ◆ 千葉県商工労働部 海岸・砂浜の新たな利活用に関する研究会 会長
- ◆ 千葉県県土整備部 ポートパーク指定管理者選定に係わる委員会 座長
- ◆ 千葉県県土整備部 千葉港津波浸水被害対策検討会 委員長
- ◆ 千葉県県土整備部 一宮の魅力ある海岸づくり委員会 会長
- ◆ 神奈川県県土整備部 東京湾・相模湾沿岸海岸基本計画改定委員会 委員長

##### ＜市町村関係＞

- ◆ 湯河原町福浦地区産地協議会 アドバイザー
- ◆ 湯河原町福浦地区地域水産業再生委員会 委員長
- ◆ 横須賀湾浅海域保全・再生意見交換会 アドバイザー
- ◆ 横須賀市浦賀：深浦ポートパーク指定管理者選定委員会 委員長
- ◆ 横須賀市港湾環境計画改定検討委員会 委員長
- ◆ 館山市ふるさと 特使
- ◆ 銚子市名洗海岸, 西明：君ヶ浜海岸「海づくり会議」座長
- ◆ 日立市河原子海岸活性化委員会 委員長

#### 海外出張・海外調査

##### 【特任教授 近藤健雄】

- ◆ フォートローダーデル国際ポートショー視察, アメリカ合衆国, 2015年11月2日～10日

### 北嶋研究室

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆ 齋藤純毅, 岩田希, 北嶋圭二, 杉本訓祥, 楠浩一, 田才晃, 西三和, 安達洋：多数回繰り返し載荷を受ける十字形柱梁接合部の部材性能に関する研究, 2015年度日本建築学会関東支部研究報告集, 2016.3
- ◆ 北嶋圭二, 天羽祥太, 歌田航己, 中西三和, 安達洋：既存RC造建物の制震補強設計法に関する研究(その1 制震補強設計法の概要と検討対象建物の構造特性), 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 構造・強度部会, 2015.12
- ◆ 歌田航己, 北嶋圭二, 天羽祥太, 中西三和, 安達洋：既存RC造建物の制震補強設計法に関する研究(その2 補強設計スタディーと補強設計法の有効

性の確認), 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 構造・強度部会, 2015.12

- ◆ 村井克禎, 波田雅也, 新井佑一郎, 竹内健一, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋：細長比 $\lambda = 260$ のH形鋼芯材を用いた実大折返しブレースの実験的研究(その1 加力実験の概要および結果), 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 構造・強度部会, 2015.12

- ◆ 波田雅也, 村井克禎, 新井佑一郎, 竹内健一, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋：細長比 $\lambda = 260$ のH形鋼芯材を用いた実大折返しブレースの実験的研究(その2 荷重上昇に関する検討), 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 構造・強度部会, 2015.12

## 教員研究業績 研究室活動業績

- ◆原田耕成, 柳田佳伸, 波田雅也, 竹内健一, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋: 黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究(その8 上屋付き模型試験体の加振実験), 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 構造・強度部会, 2015.12
- ◆柴田明奈, 菅野裕識, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋: 津波漂流物の衝突を想定したRC部材の挙動に関する実験的研究(その1 実験概要), 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆菅野裕識, 柴田明奈, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋: 津波漂流物の衝突を想定したRC部材の挙動に関する実験的研究(その2 実験結果), 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆北嶋圭二, 天羽祥太, 須藤功也, 中西三和, 安達洋: 既存中層RC造系建物の制震補強設計法に関する研究(その1 制震補強設計法の概要と検討対象建物の構造特性), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆天羽祥太, 須藤功也, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋: 既存中層RC造系建物の制震補強設計法に関する研究(その2 補強設計スタディーと補強設計法の有効性の確認), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆波田雅也, 竹内健一, 新井佑一郎, 村井克綺, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋: 折返しプレースの構造特性に関する実験的研究(その7 実建物に用いる部材の加力実験), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆原田耕成, 渡邊恭平, 柳田佳伸, 竹内健一, 波田雅也, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋: 黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究(その8 上屋付き模型試験体の加振実験): 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆齋藤大樹, 坂東美乃利, 中川佳, 難波隆行, 加村久哉, 北嶋圭二, 中西三和, 安達洋: 高強度CFT柱の構造性能に関する研究(その11 角形断面CFT柱の非線形FEM解析), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆齋藤純毅, 岩田希, 伊藤渚, 北嶋圭二, 楠浩一, 田才晃, 西三和, 安達洋: 長周期地震動を受ける超高層RC造建物の柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究(その1 実験概要), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆岩田希, 齋藤純毅, 伊藤渚, 北嶋圭二, 楠浩一, 田才晃, 西三和, 安達洋: 長周期地震動を受ける超高層RC造建物の柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究(その2 実験結果-1), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆伊藤渚, 齋藤純毅, 岩田希, 北嶋圭二, 楠浩一, 田才晃, 西三和, 安達洋: 長周期地震動を受ける超高層RC造建物の柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究(その3 実験結果-2), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆中西三和, 菅野裕識, 安達洋, 北嶋圭二: 津波漂流物の衝突を想定したRC部材の挙動に関する実験的研究(その1 実験概要), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9
- ◆菅野裕識, 中西三和, 安達洋, 北嶋圭二: 津波漂流物の衝突を想定したRC部材の挙動に関する実験的研究(その2 実験結果), 日本建築学会大会梗概集(関東), 2015.9

### ————— 著書・執筆等 —————

- ◆北嶋圭二ほか, 日本免震構造協会編: 「パッシブ制振構造設計・施工マニュアル別冊1: 制振部材取付け部設計事例」, 日本免震構造協会, 2015.10
- ◆北嶋圭二ほか, 日本建築学会他7学会合同: 「東日本震災合同調査報告建築編1 鉄筋コンクリート造建築物」, 丸善出版, 2015.5
- ◆北嶋圭二: 論文報告・層間変形角1/200まで降伏しない「折返しプレース」～実大性能確認実験と鉄骨造事務所ビルへの適用事例～, Strec協会ニュース, 構造調査コンサルティング協会, 2016.1

### ————— 社会活動(講演・講師等) —————

#### 【教授 北嶋圭二】

- ◆北嶋圭二: Outlines of Damage Evaluation, Seismic Capacity Evaluation and Response Control Retrofitting Techniques for R/C Buildings in Japan, 韓国海洋大学海洋空間建築学科開設20周年国際セミナー, 2015.9(招待講演)

- ◆北嶋圭二: パッシブ制振構造設計・施工マニュアル 別冊1 制振部材取付け部設計事例に関する講習会「既存躯体と摩擦ダンパー取付け部の設計事例」, 日本免震構造協会, 2015.10(講師)
- ◆北嶋圭二: セミナー「制震補強の今、各種工法の特徴と事例」外付け架構による制震補強構法, 構造計画研究所, 2015.11(基調講演)
- ◆北嶋圭二: セミナー「建築デザインの醍醐味と制震建物の有効性を目指して」「制震建物の等価線形化法を用いた設計法とエネルギー法の考え方」, E&CS, 2016.3(基調講演)

### ————— 学会活動 —————

#### 【教授 北嶋圭二】

- ◆日本建築学会・既存中層RC建物の耐震性能評価小委員会(幹事)
- ◆日本建築学会・既存中層RC建物の耐震性能評価小委員会評価例作成WG(主査)
- ◆日本建築学会・等価線形化法に基づく地震応答評価WG(委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築エンジニアリング小委員会(委員)
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会(委員)
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会免震制振構造の設計執筆WG(委員)
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会摩擦ダンパーWG(委員)
- ◆日本免震構造協会・パッシブ制振評価小委員会制振普及WG(委員)
- ◆日本免震構造協会・パッシブ制振評価小委員会基準対応WG(委員)
- ◆日本免震構造協会・修士論文審査委員会(委員)
- ◆構造調査コンサルティング協会・構造物評定委員会(委員)
- ◆ハウスプラス確認検査・耐震診断・耐震改修等評定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会・耐震判定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会・高層評定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会・指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会(委員)

#### 【特任教授 中西三和】

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会(委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築企画小委員会(委員)
- ◆日本建築学会・震災報告書編集委員会(委員)
- ◆日本建築学会・災害委員会(委員)
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会(委員)
- ◆国際確認検査センター 評価委員会(委員)
- ◆耐震技術広域連携協議会・耐震構造性能判定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会・指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会(委員)

### ————— 海外出張・海外調査 —————

- ◆北嶋圭二: 韓国海洋大学海洋空間建築学科との学術交流, 韓国釜山, 2015.6.9-11
- ◆北嶋圭二: 韓国海洋大学海洋空間建築学科設立20周年記念講演, 韓国釜山, 2015.9.22-24

### ————— 研究助成・委託研究 —————

- ◆北嶋圭二: 委託研究費, 青木あすなろ建設(株), 合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆北嶋圭二・中西三和: 委託研究費, ㈱ケーエフシー, あと施工せん断補強材を用いた梁部材におけるせん断補強効果の確認
- ◆北嶋圭二・中西三和: 委託研究費, ㈱ケーエフシー, あと施工せん断補強材を用いた柱部材におけるじん性の確認
- ◆北嶋圭二・中西三和: 委託研究費, ㈱奥村組, 研究題目: 未公開
- ◆北嶋圭二: 研究奨励寄付金, 日本鑄造(株), 飛鳥建設(株), 鉄建建設(株), レンズ型制震ダンパーの技術開発
- ◆北嶋圭二: 研究奨励寄付金, 積水化学工業(株), プレキャスト基礎の強度実験
- ◆北嶋圭二: 研究奨励寄付金, 東亜レジン(株), 鋼管接合部の構造性能に関する実験

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 近藤研究室

#### 審査付論文

- ◆Norio KONDO : Numerical Computation for Vortex-induced Vibrations of Two Tandem Circular Cylinders Arranged Exceeding Critical Spacing, Theoretical and Applied Mechanics Japan, Vol.63, pp.33-41, 2015.7
- ◆Kiyoshi SHINGU, Kiyotoshi HIRATSUKA, Masaki YUKAWA, Yusuke ISHIYAMA, Norio KONDO : Study on Damping Evaluation of Shell and Spatial Structures, International Association for Bridge and Structural Engineering, 2015.5

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆平塚聖敏, 新宮清志, 近藤典夫, 入江寿弘: 鉄骨 HP シェル構造のフィルター処理, Yule-AR PSD 用いた減衰分析 -Yule-AR の次数と FFT 長に関する検討-, 2015 年度日本建築学会関東支部研究報告集 I, 2016.3
- ◆近藤典夫, 田中裕基: 並列 2 円柱の流体力学に関する 3 次元数値計算, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), 2015.9
- ◆関貴仁, 近藤典夫: 低スクリューン数域の円柱の流体力学に関する数値的研究, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆井手佑介, 近藤典夫: 並列 2 角柱の流体力学特性に関する 3 次元数値解析, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12

- ◆外川信弘, 近藤典夫: 円柱の流体力学に関する 3 次元数値解析, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆守川耀, 近藤典夫: 低スクリューン数域の円柱のギャロッピング振動解析, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆平塚聖敏, 新宮清志, 富山恭平, 近藤典夫, 入江寿弘: フィルター処理とハーフパワー法による減衰評価 -二つの鉄筋コンクリート球形シェルの振動計測・解析を通して-, 2014 年度日本建築学会関東支部研究報告集 I, pp.429-432, 2015.3

#### 学外活動

- ◆日本建築学会 構造委員会 シェル・空間構造運営委員会委員
- ◆日本建築学会 構造委員会 応用力学運営委員会委員
- ◆日本建築学会 衝撃作用連成問題小委員会 幹事
- ◆日本建築学会 津波建築システム小委員会
- ◆日本建築学会 不整形構造物のモデリング検討委員会
- ◆日本機械学会 計算力学講演会 オーガナイザー

#### 研究助成・委託研究

- ◆科学研究補助金 基盤研究 (C): くい違い 2 円柱の流体力学振動および作用する流体力学特性に関する数値的研究

### 浜原・福井研究室

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆小西智貴・大川峻・福井剛・浜原正行: PC 造骨組の復元力特性に関する研究 その 1 平均減衰の推定式, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.89-90, 2015.12
- ◆大川峻・小西智貴・福井剛・浜原正行: PC 造骨組の復元力特性に関する研究 その 2 骨組モデルの提案, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆大川峻・小西智貴・福井剛・浜原正行: 異形 PC 鋼棒を用いた PCaPC 柱のせん断終局強度に関する検討-その 1 既存のせん断終局強度式の計算精度-, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆壘谷厚史・福井剛・浜原正行: 異形 PC 鋼棒を用いた PCaPC 柱のせん断終局強度に関する検討-その 2 PCaPC と RC のせん断抵抗メカニズムに関する検討-, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆山崎祐輝・福井剛・浜原正行: 異形 PC 鋼棒を用いた PCaPC 柱のせん断終局強度に関する検討-その 3 せん断終局強度式の提案と計算精度-, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆櫻井琢巳・浜原正行・福井剛: 曲げとせん断を受けるプレキャスト PC 柱圧着継目滑り耐力に関する実験計画, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆後藤翔太・上杉一二三・櫻井琢巳・福井剛・浜原正行: PCaPC 柱の滑り耐力に及ぼす目地モルタルの粘着力の影響 及ぼす目地モルタルの粘着力の影響 その 1 実験計画, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆後藤翔太・上杉一二三・櫻井琢巳・福井剛・浜原正行: PCaPC 柱の滑り耐力に及ぼす目地モルタルの粘着力の影響 及ぼす目地モルタルの粘着力の影響 その 2 実験結果, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆藤山大輔・大塚夕・山田泰之・浜原正行・福井剛: 接合部アスペクト比を要因とした PC 造 L 形柱梁接合部の力学的挙動に関する解析的研究 その 1 解析概要, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 12
- ◆藤山大輔・大塚夕・山田泰之・浜原正行・福井剛: 接合部アスペクト比を要因とした PC 造 L 形柱梁接合部の力学的挙動に関する解析的研究 その 1 解析結果, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12

- ◆山田泰之・藤山大輔・大塚夕・浜原正行・福井剛: PC 鋼材定着長さを要因とした PC 造 T 形柱梁接合部の力学的挙動に関する解析的研究, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆新石雅文・渡邊一弘・福井剛・西山峰広: 柱梁接合部内で梁主筋を機械式継手により接合した十字形部分架橋の実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.193-194, 2015.9
- ◆大塚夕・山田泰之・浜原正行・福井剛: PC 造 L 型柱梁接合部の応力伝達機構に関する解析的研究 (その 1 解析概要), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.707-708, 2015.9
- ◆山田泰之・大塚夕・浜原正行・福井剛\*: PC 造 L 型柱梁接合部の応力伝達機構に関する解析的研究 (その 2 解析結果), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.709-710, 2015.9
- ◆福井剛・内田順子・山崎祐輝・浜原正行: せん断終局強度に関する検討 (その 1 アーチトラス機構の寄与分に関する検討), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.727-728, 2015.9
- ◆山崎祐輝・内田順子・福井剛・浜原正行: せん断終局強度に関する検討 (その 2 修正式の提案), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.729-730, 2015.9
- ◆堀野隼平・渡邊一弘・三品勝大・坂下雅信・福井剛・西山峰広: 梁端部を RC 拡幅補強した軽量 PCaPC 梁の開発 (その 1: 研究背景, 目的と実験計画), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.739-740, 2015.9
- ◆三品勝大・渡邊一弘・堀野隼平・坂下雅信・福井剛・西山峰広: 梁端部を RC 拡幅補強した軽量 PCaPC 梁の開発 (その 2: 実験結果と考察), 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.741-742, 2015.9

#### 学外活動

##### [教授 浜原正行]

- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会 (委員)
- ◆PC 工学会・プレストレストコンクリート技術試験作成委員会 (委員)

##### [准教授 福井剛]

- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート規準指針小委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会 (主査)
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工 WG (委員)

増田・居駒・恵藤研究室

審査付論文

- ◆ Koichi Masuda, Kazuki Murata, Tomoki Ikoma and Mitsuhiro Masuda: "Numerical study on Reduction Effect of the Tsunami Damages of Vessels in Port Due to Mooring System with Floating Pier". Proceedings of the 9th International Workshop on Ship and Marine Hydrodynamics, Glasgow, UK, 2015.8
- ◆ Kazuyoshi Kihara, Yasushi Hosokawa, Kunihiko Kanaya, Hiroyuki Osawa, Kenichiro Shimosako, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Shuichi Nagata and Toyohik Ota: Design of a Middle Scale Wave Energy Converter of a PW-OWC Type for a Sea Test in Sakata Port, Proceedings of International Workshop on Ship and Marine Hydrodynamics, Glasgow, UK, 2015.8
- ◆ 大野正人, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 村田一城, 星野智史: 港湾内における作業船の津波被害評価に関する基礎的研究, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.71, No.2, 2015.6
- ◆ 木原一禎, 増田光一, 下迫健一郎, 大澤弘敬, 居駒知樹, 金谷泰邦, 永田修一, 細川恭史: 有孔ケーソンを利用した空気タービン式波力発電装置の開発, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.71, No.2, 1103-1108, 2015.6
- ◆ 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 榎本修: 浮体式垂直軸可変ピッチ水車の実海域での性能に関する基礎的研究, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.71, No.2, 1233-1238, 2015.6
- ◆ Hiroaki Eto, Chiaki Sato, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Ken Shimizu, Akio Kuroyanagi, and Junko Yamaguchi: Basic Plan of MEDI-FLOAT on Big Disaster Installed in the River, Proceedings of the ASME 2015 34th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2015, OMAE2015-42009, 2015.6
- ◆ Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Yuka Watanabe, Hiroaki Eto, Chang-kyu Rheem, Takeshi Kinoshita: Power Generation Potential of A VLFS Equipped With OWC Type WECS And Damper Effects On Elastic Motion, Proceedings of the ASME 2015 34th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2015, OMAE2015-41960, 2015.6
- ◆ Koichi Masuda, Mitsuhiro Masuda, Kiyokazu Minami, Tomoki Ikoma: "On Optimal Method of Mooring Ship in Floating Tsunami Protection Wharf", Proceedings of the ASME 2015 34th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2015, OMAE2015-42164, 2015.6
- ◆ Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida, Satoshi Hoshino, Jumpei Takayama: "Development of Tsunami Hazard Map for Supporting Evacuation Guidance in Tsunami", Proceedings of the ASME 2015 34th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2015, OMAE2015-42343, 2015.6
- ◆ Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Hiroaki Eto, Kazuyoshi Kihara, Hisaaki Maeda, Madoka Takahatake: UTILIZATION OF WAVE DISSIPATING CAISSONS AS AN OWC TYPE WAVE ENERGY CONVERTOR, Proceedings of the ASME 2015 34th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2015, OMAE2015-41712, 2015.6

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 高島まどか, 前田久明: PW-OWC 型波力発電装置の運動特性に関する基礎的研究 入射波角度の変化による運動特性の検討, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 榎本修, 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗: 潮流発電用浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の実用化に向けた研究 新潟県粟島航試験について, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 小口篤大, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 前田久明, 木原一禎: OWC 型波力発電装置におけるノズル影響に関する研究, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 星野智史, 豊川大樹, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗: 津波に対する清水港

湾口防波堤の費用対効果の評価に関する基礎的研究 (その 1 エージェント行動シミュレーションを用いた検討) 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12

- ◆ 星野智史, 豊川大樹, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗: 津波に対する清水港湾口防波堤の費用対効果の評価に関する基礎的研究 (その 2 エージェントの勢力圏および圏内人数の算出に関する検討) 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 景山望, 李翼臻, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 福岡哲二, 山本卓, 清水研: 浮体式資材備蓄基地の OWC 装置による動揺低減効果に関する基礎的研究, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 松村弘貴, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 星野智史, 石田貴寛: 防潮堤後背形状が遡上津波特性に及ぼす影響に関する基礎的研究 その 1 水槽実験による検討, 第 59 回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12
- ◆ 星野智史, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗: 津波作用時の構造物が流れ場に与える影響に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.41-42, 10021, 2015.9
- ◆ 増田光一, 星野智史, 居駒知樹, 恵藤浩朗: 津波漂流物の衝突荷重に関する実験的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), pp.57-58, 10029, 2015.9
- ◆ 村田一城, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗: 湾内における緊急時海底係留索を用いた船舶・浮体の津波被害低減効果に関する基礎的研究, 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10028, pp.55-56, 2015.9
- ◆ 榎本修, 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 二瓶泰範: 浮体式垂直軸型水車の波浪中応答特性に関する実験的研究, 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10039, pp.77-78, 2015.9
- ◆ 高島まどか, 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 前田久明: 消波ケーソンを利用した PW-OWC 型波力発電装置に関する研究, 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10040, pp.79-80, 2015.9
- ◆ 渡邊由香, 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗: インドネシアにおける海洋エネルギー開発に関する調査報告, 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10042, pp.83-84, 2015.9
- ◆ 小口篤大, 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 前田久明: OWC 型波力発電装置におけるノズル影響に関する研究, 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10038, pp.75-76, 2015.9
- ◆ 吉岡久輝, 恵藤浩朗, 佐藤千昭, 増田光一, 居駒知樹, 清水研: ボーンツーン型浮体のドルフィン係留とチェーンカテナリー係留の初期計画に関する研究, 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10002, pp.3-4, 2015.9
- ◆ 中島麻悠美, 恵藤浩朗, 佐藤千昭, 増田光一, 居駒知樹, 清水研: 河川上に設置する災害時医療支援浮体に関する基礎的研究 (その 3. GIS を活用した適地選定に関する検討), 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10003, pp.5-6, 2015.9
- ◆ 清水研, 恵藤浩朗, 佐藤千昭, 増田光一, 居駒知樹, 中島麻悠美: 河川上に設置する災害時医療支援浮体に関する基礎的研究 (その 4. 運用方法および施設機能に関する検討), 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10004, pp.7-8, 2015.9
- ◆ 岸田智之, 恵藤浩朗, 佐藤千昭, 増田光一, 居駒知樹, 清水研: 大型石炭貯蔵浮体の応答評価に関する基礎的研究 (その 1. 重量変化に伴う波浪応答解析), 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10036, pp.71-72, 2015.9
- ◆ 山本卓, 恵藤浩朗, 増田光一, 居駒知樹, 清水研: ブラジル北部を設置対象とした PSV 用浮体式拠点港に関する基礎的研究 (その 1. 試設計および応答性能), 日本建築学会大会梗概集 (関東), 10041, pp.81-82, 2015.9
- ◆ 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 榎本修: 実海域曳航試験における垂直軸可変ピッチ水車の性能と波浪影響の考察, OES25-102, 第 25 回海洋工学シンポジウム講演会論文集, 2015.8
- ◆ 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 木原一禎, 前田久明, 高島まどか: 有孔ケーソンを利用した PW-OWC 型波力発電装置の基本性能に関する基礎的研究, 第 25 回海洋工学シンポジウム講演会論文集, OES25-108, 2015.8
- ◆ 村田一城, 増田光一, 宮本卓次郎, 村田浩隆, 居駒知樹, 恵藤浩朗: 港湾内における作業船の津波被害低減手法に関する基礎的研究, 第 25 回海洋工学シンポジウム講演会論文集, OES25-132, 2015.8
- ◆ 星野智史, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 村田一城, 大野正人: 港湾内に係留された作業船を対象とした海域津波ハザードマップに関する基礎的研究,

## 教員研究業績 研究室活動業績

第 25 回海洋工学シンポジウム講演論文集, OES25-074, 2015.8

- ◆増田光一, 惠藤浩朗, 佐藤千昭, 居駒知樹, 中島麻悠美, 清水研, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井聖太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子: 透析センターとして運用する災害時医療支援浮体の適地選定に関する検討, 第 25 回海洋工学シンポジウム講演論文集, OES25-113, 2015.8
- ◆増田光一, 惠藤浩朗, 清水研, 中島麻悠美, 佐藤千昭, 居駒知樹, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井聖太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子: 透析センターとして運用する災害時医療支援浮体の運用方法および平面計画に関する検討, 第 25 回海洋工学シンポジウム講演論文集, OES25-117, 2015.8
- ◆木原一禎, 細川恭史, 増田光一, 居駒知樹: 酒田港内における有孔ケーソンを利用した波力発電装置の発電特性, OES25-099, 第 25 回海洋工学シンポジウム講演論文集, 2015.8
- ◆増田光弘, 南清和, 増田光一: 浮体式津波対策岸壁による岸壁係留船舶の津波防災・減災対策について, 日本沿岸域学会研究討論会 2015 講演概要集 No.28, 7-1, 2015.7
- ◆星野智史, 増田光一, 居駒知樹, 惠藤浩朗: 時刻歴行動シミュレーションを用いた沿岸域の津波被害評価に関する研究 (第 1 報 防波堤の有無が津波被害特性に与える影響に関する検討), 日本沿岸域学会研究討論会 2015 講演概要集 No.28, 11-1, 2015.7
- ◆増田光一, 惠藤浩朗, 清水研, 中島麻悠美, 佐藤千昭, 居駒知樹, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井聖太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子: 災害時医療支援浮体の初期構造計画に関する基礎的研究, 日本沿岸域学会研究討論会 2015 講演概要集 No.28, 7-2, 2015.7
- ◆増田光一, 惠藤浩朗, 佐藤千昭, 居駒知樹, 中島麻悠美, 清水研, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井聖太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子: 透析センターとして運用する災害時医療支援浮体の GIS を活用した適地選定, 日本沿岸域学会研究討論会講演概要集, 7-3, 2015.7
- ◆木原一禎, 細川恭史, 増田光一, 居駒知樹, 大澤弘敏, 宮崎剛, 太田豊彦, 下迫健一郎, 坂本辰哉, 永田修一: 有孔ケーソンを利用した空気タービン式波力発電実証試験, 日本沿岸域学会研究討論会 2015 講演概要集 No.28, 2015.7
- ◆増田光弘, 南清和, 増田光一, 笹原裕太郎: 津波来襲時における斜波中の岸壁係留船舶の防災・減災対策に関する基礎的研究, 日本船舶海洋工学学会講演論文集 第 20 号, 2015S-GS2-4, pp.153-156, 2015.5
- ◆増田光一, 星野智史, 居駒知樹, 宮本卓次郎, 大野正人: 港湾管理者を対象とした海域津波ハザードマップに関する基礎的研究, 日本船舶海洋工学学会講演論文集 第 20 号, 2015S-GS2-5, pp.157-160, 2015.5
- ◆木原一禎, 金谷泰邦, 増田光一: 既設港湾構造物を活用した PW-OWC 波力発電装置の開発, 有孔ケーソンを利用した波力発電装置, 建設機械施工, Vol.67, No.2, 2015.2
- ◆木原一禎, 細川恭史, 大澤弘敏, 下迫健一郎, 増田光一, 居駒知樹, 永田修一, 金谷泰邦, 笹木隆行, 五十嵐秀樹, 太田豊彦: 空気タービン式波力発電装置の開発, 庄内・社会基盤フォーラム, 2015.1

### —— 学外活動 (講演・講師等) ——

- ◆居駒知樹: Keynote Address, Hydrodynamic Interaction Problems of Wave Energy Converters, International Workshop on Ship Hydrodynamics (IWSH2015), Glasgow, UK, 2015.8.
- ◆居駒知樹: 講演, 浮体式小型潮流発電装置の水車の開発, 平成 27 年度新潟県海洋エネルギーワークショップ, 新潟, 2016.1.

### —— 学外活動 ——

[特任教授 増田光一]

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会本委員会 (幹事)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会 (委員)
- ◆日本海洋工学学会 (理事)
- ◆日本海洋工学学会 (運営委員)
- ◆日本海洋工学学会・海洋工学シンポジウム (実行委員長)
- ◆テクノオーシャンネットワーク (理事)
- ◆PACON International (Bord of Director)

◆海洋工学懇談会 (幹事)

- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 (幹事)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会 (メンバー)
- ◆海洋エネルギー資源利用推進機構・波浪エネルギー分科会 (委員)
- ◆東京大学生産技術研究所 (研究員)

[教授 居駒知樹]

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会本委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会 (委員)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋教育推進委員会 (委員)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会 (メンバー)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 (メンバー)
- ◆日本船舶海洋工学学会・S-13 委員会 海洋再生可能エネルギー水槽実験方法検討会 委員
- ◆日本沿岸域学会・企画運営委員会 (委員)
- ◆日本海洋工学学会・日本海洋工学学会・第 25 回海洋工学シンポジウム (実行委員)
- ◆海洋エネルギー資源利用推進機構・波力分科会 (委員), 海流・潮流・潮汐分科会 (委員)
- ◆海洋工学懇談会 (幹事)
- ◆OMAE2015 Session Organizer
- ◆OMAE2016 Topics Co-organizer
- ◆IWSH2015 International Scientific Committee (委員)
- ◆IEC-TC114 国内委員会 (委員)
- ◆IEC-TC114 波力装置実証試験法 (62600-103) 専門員 (国内代表)
- ◆Renewable Energy Conference 2016 分科会 8 Ocean Energy (Co-Reader)
- ◆Techno-Ocean2016 Technical Program Committee Co-chair
- ◆RENEW 2016 Scientific Committee member
- ◆東京大学生産技術研究所 (研究員)

[准教授 惠藤浩朗]

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築計画小委員会 (幹事)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会・構造部会 (委員)
- ◆日本船舶海洋工学学会・東部支部編集委員会 (委員)
- ◆日本海洋工学学会・海洋工学シンポジウム (実行委員)
- ◆私立大学キャンパスシステム研究会・第一分科会 (運営委員長)
- ◆私立大学キャンパスシステム研究会・メディアコミュニケーション局 (運営委員長)

### —— 海外出張・海外調査 ——

- ◆増田光一: OMAE2015 参加, カナダ, 2015.5.30-6.5
- ◆増田光一: 浮体式建築物現地視察・調査, 中国, 2015.11.5-8
- ◆増田光一: 台湾, 2015.1.30-2.2
- ◆居駒知樹: OMAE2015 講演, カナダ, 2015.5.30-6.5
- ◆居駒知樹: 国際会議 IWSH 参加, イギリス, 2015.8.24-30
- ◆居駒知樹: 水上飛行機現地視察・調査, カナダ, 2015.8.30-9.4
- ◆居駒知樹: 浮体式建築物現地視察・調査, 中国, 2015.11.5-8
- ◆居駒知樹: 共同研究セミナー参加, 台湾, 2015.1.30-2.2
- ◆惠藤浩朗: OMAE2015 講演, カナダ, 2015.5.30-6.5

### —— 研究助成・委託研究 ——

- ◆増田光一: 助港湾空港技術サービス寄付金, 作業船の津波による被害とその対策に関する研究
- ◆増田光一, 木下健: 東京大学生産技術研究所研究奨励寄付金, 海洋再生エネルギーに関する研究
- ◆居駒知樹: 科学研究費補助金 基礎研究 (B)
- ◆居駒知樹: JST マッチングプランナー「探索試験」分担金 (大坂府立大学)
- ◆増田光一, 居駒知樹: 委託研究, エム・エム・ブリッジ (NEDO 海洋エネルギー発電システム実証研究 (空気タービン式波力発電) 再委託)
- ◆居駒知樹: 委託研究, 三菱重工 (平成 27 年度潮流発電技術実用化推進事業再委託)

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 大塚研究室

#### 審査付論文

- ◆大塚文和・川西利昌・増田光一：東京湾におけるアサリ浮遊幼生の3次元移動モデルの構築について、土木学会論文集B2（海岸工学）、vol. 71, No. 2, 2015.11
- ◆Fumikazu Otsuka, Toshimasa Kawanishi, Koichi Masuda: A STUDY ON VERTICAL MOVEMENT MODEL FOR PLANKTONIC LARVAE OF MANILA CLAM IN TOKYO BAY, Proceedings of the ASME 2015 34th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2015, 2016.6

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆遠藤裕伸・大塚文和・川西利昌：船橋三番瀬海浜公園における放射線量の観測とその特性解析、第59回日本大学理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12
- ◆荒井聖也・大塚文和・川西利昌：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量の観測とその特性解析、第59回日本大学理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12
- ◆曾我匠・大塚文和・川西利昌：荒川から東京湾に流入する放射性物質の推定、第59回日本大学理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12
- ◆末永友真・大塚文和・川西利昌：東京湾を対象とした生態系ネットワークの

解明に関する基礎的研究、第59回日本大学理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12

- ◆丸山僚太・大塚文和・川西利昌：日本海・新潟沖における流況特性に関する基礎的研究、第59回日本大学理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12
- ◆大塚文和・末永友真・川西利昌：東京湾におけるアサリ幼生の鉛直移動について、日本沿岸域学会研究討論会講演概要集、2015.7
- ◆吉松亮一・大塚文和・川西利昌：江戸川から東京湾に流入する放射性物質量の推定について、日本沿岸域学会研究討論会講演概要集、2015.7

#### 学外活動（学会名・委員会名）

- ◆日本沿岸域学会・論文委員会（委員）
- ◆海洋調査技術学会・企画委員会（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会海洋建築計画小委員会（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築用語事典改訂準備WG（委員）

#### 研究助成・委託研究

- ◆科学研究費助成基金助成金、研究課題「東京湾奥部における放射性物質の実態およびその長期的予測に関する研究」（基盤研究C）

### 岡本研究室

#### 審査付論文

- ◆Kyoichi Okamoto, Tkakeshi Toyama : OCEAN DECONTAMINATION: REMOVAL EFFICIENCY OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY USING MICRO BUBBLES AND ACTIVATING MICROORGANISMS, Proceedings of International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Osaka, Japan, 16-18, 2015.11
- ◆Kyoichi Okamoto, Tkakeshi Toyama : DECONTAMINATION OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY MICRO-BUBBLE AND MICROORGANISMS, International Journal of GEOMATE (Geotechnique, Construction Materials and Environment), Vol.9, Serial. 17&18, PP.1390-1394, 2015.9
- ◆Hirotsuke Hirano, Tkakeshi Toyama, Nobuyuki Nishimiya, Kyoichi Okamoto : REMOVAL OF CESIUM FROM SEA SLUDGE THROUGH DECOMPOSITION OF ORGANIC, International Journal of GEOMATE (Geotechnique, Construction Materials and Environment), Vol.8, Serial. 15&16, PP.1203-1206, 2015.6

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆片桐健仁、岡本強一、藤野正俊、北澤大輔：炭素電極を用いた電気分解による水質浄化実験—交番電圧を用いた回路を組み入れた場合の浄化性能—、日本水環境学会、2016.3
- ◆栗原和也、涌井雄介、岡本強一：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥からの放射性セシウムの除去 第1報 実験の再現性と浄化性能、第59回日本大学理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12
- ◆涌井雄介、栗原和也、荒川高広、小勝大洋、岡本強一：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥からの放射性セシウムの除去 第2報 ヘドロ粒径の性状特性、第59回日本大学理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12
- ◆風間博貴、宮本颯、小森谷友絵、岡本強一：循環型浄化システムにおいて微生物直接投入による堆積汚泥からの放射性セシウム除去、第59回日本大学

理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12

- ◆片桐健仁、岡本強一、藤野正俊、北澤大輔：炭電極を用いた電気分解による水質浄化実験 交流回路を用いた場合の浄化性能、第59回日本大学理工学部学術講演会論文集、海洋建築系部会、2015.12
- ◆Ayaka Ogawa, Haruka Suzuki, Mitsuru Suzuki, Ayato Inamura, Takayuki Horiuchi, Kyoichi Okamoto : Decontamination of the Sea : Removal of Radioactive Cesium from the Seabed Deposition Sludge using Microbubbles and Microbial Activity, 第8回日韓シンポジウム、2015.8
- ◆Ayaka OGAWA, Haruka SUZUKI, Mitsuru SUZUKI, Takaaki SONE, Kyoichi OKAMOTO : Purification Experiments for Ocean Sludge by Addition of Microorganisms using Purification System with Circulation Type -Using Specified Microorganism as the Activator-, 第8回日韓シンポジウム、2015.8
- ◆岡本強一、小森谷友絵：循環型浄化システムを用いた微生物の投与による堆積汚泥の浄化実験—微生物活性によって特定された微生物を用いた場合—、日本沿岸域学会研究討論会2015講演概要集No.28、2015.7
- ◆岡本強一、遠山岳史：マイクロバブルと微生物活性を利用した海底堆積汚泥から放射性セシウムの除去性能、日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第20号、2015.5

#### 学外活動

- ◆(株)日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会（委員）
- ◆東京湾再生官民連携フォーラム・指標活用プロジェクトチーム（委員）
- ◆NPO 海の森づくり推進協会（理事）
- ◆東京大学生産技術研究所（協力研究員）

#### 研究助成・委託研究

- ◆岡本強一：科学技術研究費、基盤研究（C）、「海の除染：マイクロバブルと微生物を利用した海底堆積汚泥からの放射性セシウムの除去」

## 教員研究業績 研究室活動業績

### 小林・野志研究室

#### 審査付論文

- ◆小林昭男, 宇多高明, 野志保仁, 吉野貴之, 三上康光: 礫と砂の含有率が異なる海浜の2次元波浪応答実験, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), vol.71, No. 2, L\_541-L\_546, 2015.11
- ◆Y. Noshi, T. Uda, A. Kobayashi, S. Miyahara, M. Serizawa: Beach Changes Observed in Phan Rang City in Southeast Vietnam, Procedia Engineering, 8th International Conference on Asian and Pacific Coast 2015, 116, 163-170, 2015.9
- ◆A. Kobayashi, T. Uda, Y. Noshi: Shoreline Devastation of Hota Coast by Man-Made Causes, Procedia Engineering, 8th International Conference on Asian and Pacific Coast 2015, 116, 171-178, 2015.9
- ◆宇多高明, 野志保仁, 小林昭男, 宮原志帆, 芹沢真澄: Vietnam 南東部 Phan Rang City 近郊で観察された海浜変形, 地形, Vol.36, pp.107-123, 2015.7
- ◆関寺将司, 小林昭男, 宇多高明, 野志保仁: 波崎海岸のポケットビーチ化に伴う海浜変形の実態, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.71, No.2, L\_275-L\_280, 2015.6
- ◆東原浩志, 小林昭男, 宇多高明, 三上康光, 野志保仁: 盤洲干潟縁辺部における海浜変形の現地実測, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.71, No.2, L\_293-L\_298, 2015.6
- ◆藤間タイカ, 小林昭男, 宇多高明, 野志保仁: 涸沼北岸に位置する親沢鼻砂嘴の大地震後の変形, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.71, No.2, L\_395-L\_400, 2015.6
- ◆宇多高明, 小林昭男, 芹沢真澄, 伊達文美, 野志保仁, 宮原志帆: Vietnam の Vung Tau 近郊での河口砂州伸長と rhythmic pattern の海浜形成, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.71, No.2, L\_760-L\_765, 2015.6
- ◆宇多高明, 野志保仁, 小林昭男, 芹沢真澄, 宮原志帆, 伊達文美: Vietnam の Vung Tau 近傍の Co May River 河口部における地形変動, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.71, No.2, L\_766-L\_771, 2015.6
- ◆三上康光, 小林昭男, 宇多高明, 東原浩志, 野志保仁: 盤洲干潟縁辺部の地形と植生分布との関係, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), vol.71, No.2, L\_975-L\_980, 2015.6
- ◆Noshi, Y., Uda, T., Kobayashi, A. and Yoshino, T.: Upcoast expansion of erosion oppoosite to direction of predominant longshore sand transport observed in Futtsu Point, Coastal Sediments ' 15, CD-Rom, No. 38, pp. 1-15, 2015.5

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆小澤宏樹, 宇多高明, 星上幸良, 小林昭男, 野志保仁: 福井県水島での砂浜安定化のための人工磯の順応的管理, 日本沿岸域学会研究討論会講演集, 15-5, 2015.7
- ◆宇多高明, 小林昭男: 韓国西海岸の Anmyeondo の Kkotji Beach の侵食原因と対策, 日本沿岸域学会研究討論会講演集, 12-2, 2015.7

#### 社会活動

- ◆市原市建築審査会 (委員)

#### 学会活動

- ◆日本沿岸域学会 (理事)
- ◆日本海洋工学会 (理事)
- ◆日本海洋工学会・運営委員会委員 (委員)
- ◆土木学会・海岸工学委員会・沿岸域研究連携推進小委員会 (委員)
- ◆土木学会・海洋開発論文集査読委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 (委員)

#### 海外出張・海外調査

- ◆小林昭男, 野志保仁: 第8回アジア太平洋海岸工学会 APAC2015 での研究発表と情報収集, インド・マドラス, 2015年9月5日~2015年9月12日
- ◆野志保仁, 三上康光: ホーチミン天然資源環境大学でのセミナー参加と学術交流, ベトナム・ホーチミン, 2015年10月23日~2015年10月27日
- ◆小林昭男: 海外派遣研究員 (短期B): 研究課題「インド洋及び太平洋沿岸諸国及び島嶼における海岸環境の維持管理に関する研究」: 10月23日~10月27日 (ホーチミン天然資源環境大学でのセミナー参加と学術交流, 10月28日~11月6日 (ベトナム海洋研究所での講演と調査研究), 11月7日~11月11日 (フィリピン・セブ工科大学での講演と調査研究), 11月12日~11月21日 (韓国海洋大学校での講演と調査研究, ウルチンでの海岸調査, カンヌン・カンドン大学での講演と調査研究, ソクチョ・キョンドン大学での講演と調査)
- ◆小林昭男: 台湾国立成功大学台南水工試験所における講演と学術交流, 台湾・台南市, 1月30日~2月3日

#### 研究助成・委託研究

- ◆小林 昭男: 日本学術振興会・科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C), 礫養浜後の堆砂機構の解明と数値予測モデルの構築

### 登川研究室

#### 審査付論文

- ◆登川幸生・山本守和: 津波発生時における自動車避難シミュレーションによる避難経路の分析 千葉県長生郡一宮町を対象として, 日本建築学会環境系論文集, vol. 721, 2016.3

#### 口頭発表・ポスター発表

- ◆佐藤寛深, 山本守和, 宮崎渉, 登川幸生: 避難所収容人数を考慮した歩行者避難に関する研究 一浜松市西区舞阪地区を対象として一, 日本建築学会大会梗概集 (関東), pp.1-2, 2015.9
- ◆佐藤寛深, 登川幸生: 迂回行動を考慮した自動車避難シミュレーションに関する研究, 第59回日本大学理工学部学術講演会論文集, 海洋建築系部会, 2015.12

#### 学会活動

- ◆日本建築学会・情報委員会 (幹事)
- ◆日本建築学会・情報ネットワーク委員会 (幹事)
- ◆日本建築学会・情報システム技術委員会・スマート建築モニタリング応用小委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・情報システム技術委員会・ホームページWG (委員)

平成  
27  
年度

## 卒業生の就職状況

就職指導委員 浜原正行

## 1. 全体状況

本年度（2016年2月15日現在）の就職内定率は学部97.5%、大学院100%、全体で98.1%であり、昨年の全体での就職内定率96%を約2ポイント上回るなど、引き続き堅調に推移しています（表1）。これは、日本経済におけるアベノミクス効果、東日本震災復興特需、東京オリンピックの開催決定等によるものであると考えられ、今後もこの好調は維持する可能性が高いと思われます。就職活動にあたっては、学科が積極的なサポートと企業の紹介を行い、一人でも多く希望する企業の就職内定を勝ち取るよう働きかけています。

## 2. 業種別就職状況

本学科における就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く48名（46.1%）を占めているほか、設計事務所・コンサルタント24名（23.1%）、住宅・不動産13（12.5%）であり、全体の81.7%を占めています。また、これらのなかで、海洋・コンサルタント業6名（5.7%）への就職先がみられるのも、本学科の特徴です。主要な内定先企業（表2）をみると、いずれも業界屈指の大手企業から一定数の内定が得られていることが分かります。

## 3. 次年度の就職活動に向けて

## 就職活動に際しての留意点

昨年度より就活の解禁が12月から3月に後ろ倒しとなりました。これは就活の期間が3ヶ月短縮されたことを意味し、就活は正に短期決戦の様相を呈すこととなります。このような状況を乗り切るためには、3月の時点で自分の進路（職種）をしっかりと決め、短期決戦に備えるということが重要なポイントになります。君達の先輩の中にもごく少数ではありますがまだ就職の決まっていない人がいます。この先輩たちに共通していることは、就活が解禁となっても自分の進路を決めることができなかつたことです。本年度の内定状況がかなり良好であったからといって、進路決定のステップを疎かにすると就活の負け組になります。さらに、好景気だからといって、採用に至るまでのハードルは、決して低くなっているわけではありません。一例として、ある建設会社における採用にいたるまでのプロセスを以下に示します。

## ① エントリーシート提出

（本学・学科OB、OGによるリクレーター面接）

## ② SPI試験

## ③ 人事担当者による面接

## ④ 専門試験

## ⑤ 役員による面接

## ⑥ 内定

本プロセスにおいて、②のSPI試験では言語能力と数的能力が試されます。③および⑤の面接では、志望動機は勿論のこと、これまでの生き方を含む、全人格を問われる内容が主に質問されます。また、個々の質問では、エントリーシートで書いた内容（自己PRや学生時代に力を入れたことなど）がチェックされます。さらに、④の専門試験では、構造、施工、法規、計画などの多岐に亘る内容が出題されます。このようなハードルを乗り越えるためには、まず、日頃から学業に熱心に取り組むことがとても大切です。専門試験以外のハードルを越えるためには、学内の就職セミナーの活用がとても効果的です。理工学部では、エントリーシートの書き方、SPI試験の対策、面接対策などの系統立てた就職対策セミナー及び公務員試験対策セミナーを開催してい

ます。就職を希望する学生、公務員を希望する学生は是非参加してください。

学科の就職指導には福井准教授と学科事務の岡崎さん、林さんが担当しており、求人票やパンフレットの管理、履歴書の配布などにより、さまざまな進路相談も受け付けています。就職活動に際して、困ったことがあったらいつでも気軽に相談ください。

## 就職情報の掲示について

主要関連会社のインターンシップや現場見学会の情報は1階および3階エレベーターホールに掲示しています。企業から学科が受ける求人票とそのリスト、および教室推薦の呼びかけ等は各研究室に配布しています。また、本年度からはこれらの情報は全てmoodle2（授業支援サイト）にアップロードされており、常に最新の情報をどこにいても入手できるようになりました。海洋建築工学科の学生を対象としている中身の濃い情報ですので、こまめに検索するよう心がけてください。

## 企業への応募方法

企業への応募方法は「学校推薦」、「自由応募」、「縁故推薦」があります。以下にその概要について説明します。

学校推薦は、学科で企業を志望する学生に対して面接を行い、ここで選抜された学生が試験に臨む方式です。企業によっては後述の自由応募よりも選考がかなり優遇されます。ただし、学校推薦で内定した場合は、必ずその会社に就職しなければならないので注意してください。希望者は上述の求人票リストに記載されている教室〆切日までに教室事務に申し出てください。ただし、〆切日が設定されていない場合は、申し出はいつでもOKです。この場合の推薦は原則として先着順とします。

自由応募は、学校とは無関係に企業に応募する方法であり、90%以上の学生が自由応募によって就職を決めています。

縁故推薦は、あなたが希望する会社に縁故がある場合、これを利用して応募するものです。あなたの知り合いがコネを持っている場合は大いに利用してください。入社後の人事評価は応募方法によって差別されることはありません。

## 推薦状が欲しいとき

企業が推薦状を求めてきたときは、会社名を就職申し込みカードに記入し、指導教員捺印のうえ、教室事務に申し込んでください。また、推薦状は、教室推薦だけでなく、自由応募、縁故推薦に対しても発行できます。ただし、推薦状の提出後には内定辞退をしないという暗黙のルールがあるので、その意味を十分に理解したうえで提出してください。

## その他の注意事項

複数の会社を受験することはOKですが、複数の会社から内定が出た場合は、必ず一つの会社に絞ってください。また、決して複数の会社の誓約書にサインしないようにしてください。

最後に、就職活動開始前に、必ず「Nu就職ナビ」に個人情報を登録してください。本サイトに登録することで、求人情報が指定のメールアドレスに届くほか、就職活動において様々な有益な情報を得ることができます。

表1 就職・進学状況(学部・大学院)

	学部			大学院			学部・院 合計	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計		26年度	25年度
合計(人)	93	20	113	23	1	24	137	151	148
就職希望者(人)	65	15	80	23	1	24	104	124	118
内定	62	15	77	23	1	24	101	119	111
未定	3	0	3	0	0	0	3	5	5
内定率(%)	95.4	100	96.3	100	100	100	97.1	96	94.1
大学院進学(人)	26	4	30	0	0	0	30	22	27
本学	25	4	29	0	0	0	29	20	27
他大学	1	0	1	0	0	0	1	0	0
その他(人)	2	1	3	0	0	0	3	5	3
研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学(希望者含む)	1	0	1	0	0	0	1	0	1
専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1
次年度公務員志望	0	1	1	0	0	0	1	2	0
就職の意思のない者	1	0	1	0	0	0	1	3	1

表2 主要内定企業一覧

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	鹿島建設	2		建設業	鉄建建設		1
	大林組	3	1		長谷工コーポレーション	2	
	清水建設	3	1		東亜建設工業		1
	大成建設	3		住宅	積水ハウス	2	1
	戸田建設	2			大和ハウス工業	2	1
	前田建設工業	1			東急ホームズ	1	
	東急建設	1		海洋・ コンサル タント	日本港湾コンサルタント	1	
	五洋建設	2			八千代エンジニアリング		1
	飛島建設	1	2		オリエンタルコンサルタンツ		2
業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
海洋・ コンサル タント	三井共同研究コンサルタント		1	設計 事務所	泉創建エンジニアリング	1	
	サンユシビルエンジニアリング	1	1		日中コンサルタント	1	
	東京久栄		1	その他	日本郵政	1	
	長大	1			全日本空輸		1
	アルファ水工コンサルタント	1			建築試験センター	1	
	日水コン	1			日本ファシリオ	1	
設計 事務所	NTT ファシリティーズ		1	役所	千葉県庁	1	
	松田・平田設計		1		財務省	1	
	類設計室	2			国土交通省	1	

# 海と建築

vol.  
9

## 大阪の土佐堀川に浮かぶ牡蠣船

**都** 市内の河川や運河を親水空間として再生する水辺の社会実験が広島で2004年にはじめられてから、東京や大阪、名古屋にも伝播し、それまで人気のなかった水辺に人々の賑わいが取り戻されてきた。近年、都市の水辺は護岸整備の面で親水的配慮が展開される反面、水面の利用は法的制約が多いため、恒常的で継続的な利用は少なく、水辺利用に対する規制緩和が進められてきている。

こうした都市の水辺の活用方策が模索される遥か以前、近世・近代の大阪堀川では既に“牡蠣船”が川面に浮かび、水辺は都市住民の憩いの場として情緒や風物詩を生み出す場として親しまれていた。

の牡蠣船は、元々は広島における牡蠣養殖の成功に由来したもので、当初は大量の牡蠣を運搬船に載せ

て近隣の港々で牡蠣販売が行われていた。それが次第に生産物の販売から料理としての付加価値販売に代わることで、運搬船も屋形船形態へと姿形を進化させることになった。そして、販売先も広島周辺部から次第に京阪神方面まで拡大されるようになり、大阪の堀川で大きな成功を収めるようになり、最盛期には35隻もの牡蠣船が川面に浮かんだ。その後、瀬戸内海を中心に全国の港に販路を広げて行き、和歌山、高知、別府、金沢、新潟、東京、さらに北朝鮮平城や中国青島にまで販売網は拡大されていった。

**屋** 形船形態の牡蠣船は、当初は座敷だけであったが調理場など機能用途の付加が図られていった。そして、形態的变化として居室部分の規模拡張が図られ、後に船台の機能的変化に基づく曳航型や浮函型の牡蠣船の出現を招き二階建形式も建造された。こうした牡蠣船は水上店舗とも呼ばれた。現在でも全国に4隻存在しており、大阪土佐堀川には90年前から浮かぶ「かき広」(写真)があり、海のない長野県松本市松本城外堀にも「かき船」が浮かんでいる。こちらは昭和8年に広島で建造された牡蠣船を解体して車で運び込んだ後、水面で組立てたもので、今日でも現役である。



### 教員異動

- 就任：教授 小林直久 先生
- 昇格：教授 北嶋圭二 先生
- 就任：特任教授 浜原正行 先生
- 就任：特任教授 増田光一 先生
- 就任：客員教授 光井 純 先生 (担当：デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン)
- 就任：非常勤講師 古谷 章 先生 (担当：海洋建築工学特別講義Ⅰ、総合演習)
- 就任：非常勤講師 新田知生 先生 (担当：デザイン演習Ⅲ、ベーシックデザイン演習)
- 就任：非常勤講師 小野和幸 先生 (担当：デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ)
- 就任：非常勤講師 筒井 潤 先生 (担当：デザイン演習Ⅱ)

## 海建

カイケンマガジン No.101 発行者/桜井慎一 発行日/平成28年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部海洋建築工学科教室  
Tel : 047-469-5420 (事務室) Fax : 047-467-9446

編集委員：恵藤浩朗、山本和清、野志保仁  
<http://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>  
デザイン制作—QB System Co.,LTD.